

平成20年度（第52回）
岩手県教育研究発表会発表資料

キャリア教育

高等学校における系統的なキャリア教育を 実践するための指導プランの作成に関する研究

—総合的な学習の時間と特別活動を中心として—

平成21年1月6日
岩手県立総合教育センター
長期研修生（1年）

目次

I	研究目的	1
II	研究の方向性	1
III	研究の内容と方法	1
1	内容と方法	1
2	授業実践の対象	1
IV	研究結果の分析と考察	1
1	高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する基本構想	1
(1)	高等学校におけるキャリア教育を実践するための基本的な考え方	1
(2)	総合的な学習の時間と特別活動を中心とする意義	4
(3)	指導プランの定義	4
(4)	総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランを系統的に行う意義	4
(5)	総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランの作成にかかわる考え方	6
(6)	高等学校における系統的なキャリア教育を実践する指導プランの作成に関する基本構想図	8
2	基本構想に基づく手だての推進試案	8
(1)	計画段階	9
(2)	実践段階	11
3	授業実践及び実践結果の分析と考察	13
(1)	分析・考察の内容と方法	13
(2)	高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プラン実践の概要	14
(3)	実践結果の分析と考察	17
4	高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する研究のまとめ	20
(1)	成果	20
(2)	課題	20
V	研究のまとめと今後の課題	21
1	研究のまとめ	21
2	今後の課題	21
	【おわりに】	
	【引用文献】	
	【参考文献】	

I 研究目的

キャリア教育では、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」などを中心とした身に付けるべき能力の育成をとおして、「勤労観」「職業観」を伸ばすことが求められている。高等学校においては、現実的探索と試行並びに社会的移行準備の時期であり、その発達段階に応じた「勤労観」「職業観」を伸ばす教育が大切であるとされている。

しかし、高等学校では、進学・就職指導のみを目的とした指導に終始しているのが現状である。そのため、身に付けるべき能力の育成がなおざりになり、就労体験（インターンシップ）、進路講演会、1日体験入学などの活動が単発的になってしまい、キャリア教育本来のねらいに沿った活動になっていないのが実情である。実際、「勤労観」「職業観」が未成熟であり、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力が低下していることも産業界を始め、進学先や就職先からも指摘されている。本県においても、3年以内で離職する生徒が、ここ数年50%を超え、進学先でも退学・進路変更を希望する学生が増加傾向にある。その要因として、教師が、キャリア教育のねらいや指導の在り方を明確にとらえておらず、キャリア教育を推進するための中核となるはずの特別活動と総合的な学習の時間において系統的な指導がなされていないと考えられる。

このような状況を改善するためには、キャリア教育の位置付けを明確にし、総合的な学習の時間や特別活動を中心としたキャリア教育指導プランを作成することが必要である。また、教師だけでなく生徒個々が自己の発達を確認できるワークシートを作成し、活用させることにより、身に付けた知識や技術等を相互に関連付け、学習や生活にいかせると考える。さらに、評価方法を指導プランに明示することで、実践過程において教師間で評価を行い、生徒に対してどのような効果や反応、課題等があったかを確認することが容易となり、次の指導に役立てることができる。

そこで本研究は、系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成をとおして、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」などを中心とした諸能力の育成方法を明らかにし、「勤労観」「職業観」を伸ばす指導に役立てようとするものである。

II 研究の方向性

高等学校キャリア教育において「勤労観」「職業観」を伸ばすため、総合的な学習の時間と特別活動を中心に、身に付ける能力の育成を軸とした系統的なキャリア教育指導プランを作成し、提示する。

III 研究の内容と方法

1 内容と方法

- (1) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する基本構想の立案（文献法）
- (2) キャリア教育の発達に基づく指導プラン・ワークシートの作成（文献法）
- (3) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践，質問紙法）
- (4) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する研究のまとめ

2 授業実践の対象

岩手県立盛岡商業高等学校 第2学年

IV 研究結果の分析と考察

1 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する基本構想

- (1) 高等学校におけるキャリア教育を実践するための基本的な考え方

ア キャリア教育の定義

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（以下、生徒指導研究センターと記す）は、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（2004）（以下、キャリア教育報告書と記す）において、「キャリア」という言葉を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と示している。

また、「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」としている。

すなわち、キャリア教育は、児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育であるととらえる。

イ キャリア教育の必要性

生徒指導研究センターによれば、若者のフリーター志向の拡大、無業者の増加、早期離職問題など、学校から職業への移行にかかる課題は深刻なものとなっている。その要因として、①就職・就業をめぐる社会環境が激変したこと、②児童生徒の働くことへの目的意識・責任感、関心・意欲・態度等といった勤労観・職業観が希薄になっていること、③円滑な人間関係を構築できない、基本的マナーが確立されていないこと等、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力が低下していることを挙げている。

また、少子化や大学増設等による進学率の上昇により、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したり、卒業後の進路や職業について考え、選択・決定することを先送りにしたりする傾向にある等を指摘している。

以上のような現状を踏まえ、キャリア教育では、個人として力強く生きていくために、基盤となる意欲や態度及び勤労観・職業観を伸ばすこと、社会人・職業人として、自立できるようにするためにキャリア教育のねらいに沿った指導が必要である（キャリア教育報告書）。

ウ 勤労観・職業観を育成するための諸能力とその定義

生徒指導研究センター（2002）は、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書」（以下、調査研究報告書と記す）の中で、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」を示している。

この中で、学校段階別にみた職業的（進路）発達段階にかかわる諸能力を、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」等を中心とした身に付けるべき四つの領域と八つの能力に分類している（【表1】）。

【表1】職業的（進路）発達段階にかかわる諸能力—高等学校のみ抜粋—

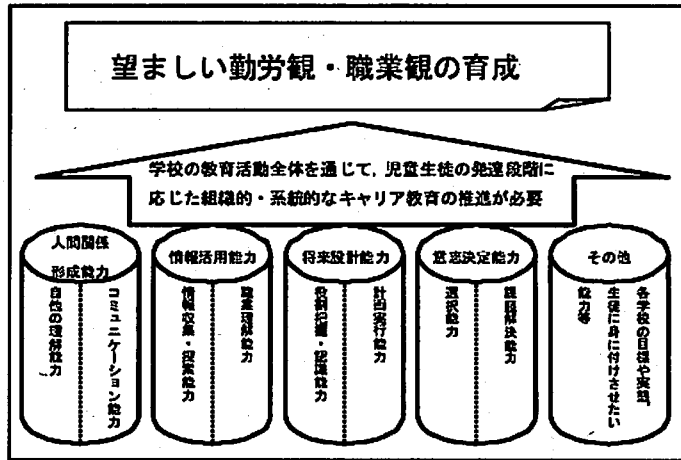
四つの領域	説明	八つの能力	説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	自他の理解能力	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	情報収集・探索能力	進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		職業理解能力	様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		計画実行能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行

意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	選択能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		課題解決能力	意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

その後、キャリア教育報告書を発表し、その中で校種別の詳細な学習プログラムの枠組み（例）を公示した。

しかし、キャリア教育の先進校の実践例と学習プログラムの枠組み（例）を比較してみると、四つの領域と八つの能力を踏まえながら各校の現状にあわせて取り組んでいる学校もある。

梶（2004）は、児童生徒の自己分析・自己理解によって内的な深化、自己表現を成長させる観点から、「自己教育能力」を設定し、五つの領域と10の能力で取り組む学習プログラムを作成している。しかし、基本となっているのは生徒指導研究センターから示された学習プログラムの枠組み（例）ととらえることができる。



【図1】勤労観・職業観を育成するための諸能力
 む学習プログラムを作成している。しかし、基本となっているのは生徒指導研究センターから示された学習プログラムの枠組み（例）ととらえることができる。

したがって、勤労観・職業観を育成するためには、【図1】及び2頁の【表1】のような四つの領域能力と八つの能力を実践する土台としつつ、各学校の目標や実態、生徒に身に付けさせたい能力を分析した上で、他の育成する能力を設定することが望ましい。

例えば、ボランティア活動を重点的に行っている学校では、「社会活動参画能力」や、ディベート活動を取り入れている学校であれば、「自己開示・表現能力」といった領域を設定することも可能である。

本研究においては、高等学校でキャリア教育を推進するため、調査研究報告書から示された四つの領域を中心に、それぞれの諸能力を伸ばすことで、勤労観・職業観を育成できるととらえる。

エ 高等学校におけるキャリア教育の意義

イで述べたように、生徒を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。とりわけ、高等学校は、卒業時の進路が多岐にわたり、生徒自身もどのように自分の将来を考えて行けばよいか模索する段階である。

キャリア教育報告書では、若者の勤労観・職業観や職業人としての基礎的資質・能力の低下を指摘している。厚生労働省（2007）が発表した「高等学校新規学校卒業者の就職離職状況調査結果」では、1999年より3年以内の離職率が50%近い数値にある。本県においては、3年以内の離職率が1999年より50%前後を推移している状況にある。

その要因としては、①企業側と求職者側の雇用のミスマッチが起きている、②労働条件がよくない、③人間関係を円滑に構築できない等、が挙げられる。早期離職した生徒達の中には再就職し、新しい職場で自分のキャリアに磨きをかける者もいるが、そのまま「ニート」「フリーダー」になってしまう者も少なくない。

高校生が進学を希望する理由として、「専門的な知識・技術を身に付けたい」「希望する職種に就くために必要な資格を得たい」等と目標をもって進学する生徒がいる反面、「まだ働きたくないから」「進学が当然だと思っている」「みんなが進学するから」という安易な理由で「入れる学校」

を決める生徒も少なくない。

大学入学後の状況を内田（2007）は、「入学後、他の大学や専門学校を受験しなおす」学生がここ10年間で倍以上に、無気力傾向の学生が二倍近くに増加し、高等学校段階での進路指導が重要であることを指摘している。

このような実態を踏まえ、高等学校では、身に付けるべき能力を育成しつつ、個々の勤労観・職業観を伸ばすためにキャリア教育を実践する意義があると思われる。

(2) 総合的な学習の時間と特別活動を中心とする意義

キャリア教育を学校教育全体で行うために文部科学省（2006）は、「キャリア教育推進の手引き」（以下、手引きと記す）の中で、総合的な学習の時間や特別活動は、各教科で学んだ成果を様々な活動をとおして、深化・発展、統合させたり、その成果を教科の学習に反映させたりしていくというねらいをもっている。そこで展開される職業や進路に関連する学習活動は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取り組みとして最も重要な役割を担うものであり、その計画等を改善、充実することとしている。

しかし、キャリア教育を実践する上で教師側にも様々な問題が挙げられている。

渡辺（2007）は、「進路指導とどこが違うのか」「また新しいことをしなくてはならないのか」「職場体験をさせればいい」といった教師側の認識に問題があると指摘している。

また、教員のキャリア教育に対する意識調査（愛知県総合教育センター、2007）では、「提唱されている内容が分かりにくい」「教員が果たすべき役割が分からない」といったキャリア教育の位置付けが明確になっていない問題を挙げている。

以上のことから、キャリア教育を学校教育全体で行うためには、キャリア教育の位置付けを明らかにし、総合的な学習の時間や特別活動を中心として各教科や部活動等との連携を図りながら行うことに意義があると考えられる。

そこで、本研究は、高等学校におけるキャリア教育の位置付けを明確にし、キャリア教育における総合的な学習の時間と特別活動を中心とした指導プランを作成するものである。

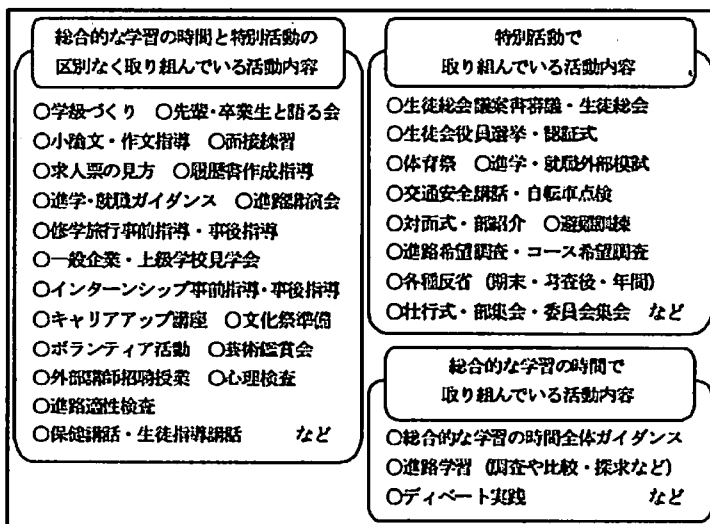
(3) 指導プランの定義

指導プランとは、高等学校における総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的なキャリア教育を実践するための活動計画である。

(4) 総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランを系統的に行う意義
ア 総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランを取り入れる意義

これまで高等学校が取り組んできた活動内容を山崎（2006）は、総合的な学習の時間や特別活動の取り組みは、広く進路指導の一環としてとらえられることが多く、本人の適性と職業の特性との合致点を見つけることに力を注ぐ指導であると指摘している。

また、川崎（2007）も入学段階からキャリア教育のねらいに沿った取り組みを行っていたが、三年生になるとキャリア教育と切り離し、従来の進路指導に転換する場合が多い、とキャリア教育の持続



【図2】各学校で取り組んでいる主な活動内容

性の欠如について指摘している。

各学校の現状をみると、特別活動は年間計画に沿って実施するものの、計画どおり実施できず、担任裁量で実施される時間数も多々ある。総合的な学習の時間においては、各学年の特色をいかし、年間計画を作成するが、キャリア教育のねらいに沿った指導を行っているとは言い難い。

しかし、実際に行われている総合的な学習の時間や特別活動の活動内容をみれば(4頁【図2】)、キャリア教育のねらいに沿った活動が多数ある。これらの活動内容を、キャリア教育の視点で系統的につなぐことにより、生徒に対し、学んだ知識や技術が風化しないうちに事後指導ができると考える。

以上のことから、キャリア教育を実践するためには、指導プランを取り入れることに意義があると思われる。

イ 系統的なキャリア教育の定義

手引きでは、諸能力の育成に関連する諸活動を体系化し、計画的・組織的に実施することと示している。

また、調査研究報告書においては、キャリア教育のねらいを意識しながら指導することにより、活動のねらいや目的が明確になり、取り組みへの創意・工夫が生まれ、系統的なキャリア教育が行えるとしている。

系統的なキャリア教育を行うため、これまで行っている活動内容を学校の現状に照らしあわせ、キャリア教育のねらいに沿って分類を行った。また、それぞれの段階を踏んでキャリア教育の活動を行うことにより、系統的な指導が可能となると考える。

したがって、本研究においては、学年に応じて次のような五つの段階に分け、そこで身に付いた諸能力を次の段階で更に伸ばすことによって、系統的なキャリア教育に取り組めるととらえる。

(ア) 第一学年

第一段階：自己・他者を理解する(人間関係形成能力の育成に重点を置く)

第二段階：職業を理解する(視野を広げさせる活動に重点を置く)

第三段階：職業を体験する(第二段階で新たに気付いた職業を体験することにより、職業観を広げさせる活動に重点を置く)

第四段階：将来を設計する(前向きに自己の将来を設計する活動に重点を置く)

第五段階：進路目標の仮設定(将来の具体的な目標を定めることに重点を置く)

(イ) 第二学年

第一段階：自己を再認識する(客観的に自分を見つめ直し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションの育成に重点を置く)

第二段階：職業を理解する(将来就きたい職業を、より深く探求することで個々の視野を広げさせる活動に重点を置く)

第三段階：職業・上級学校を体験する(自己の描いている将来像を体験することにより、勤労観・勤労観を養う活動に重点を置く)

第四段階：将来を再設計する(社会の現実を踏まえ、将来設計を見直す活動に重点を置く)

第五段階：進路を再検討する(自己の能力に応じて、将来の具体的な目標を定めることに重点を置く)

(ウ) 第三学年

第一段階：自己実現をする(リーダーシップを發揮し、自己有用感等の育成に重点を置く)

第二段階：進路目標の設定(これまで養われた勤労観・職業観を基に、自己の進路目標をより鮮明に設定する活動に重点を置く)

第三段階：進路実現への取組(個々が掲げた目標に向け、将来設計を実行できる能力を育む活

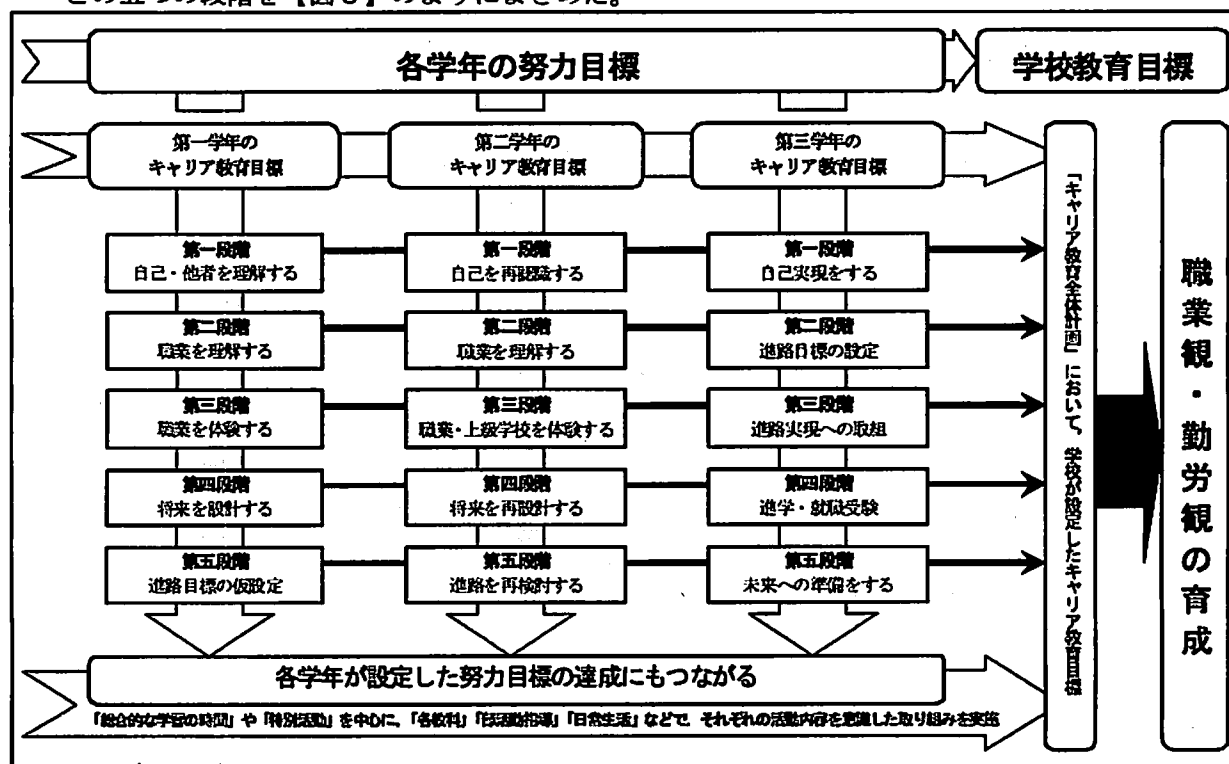
動に重点を置く)

第四段階：進学・就職受験（個々の進路に応じ、これまで養われた諸能力を振り返りながら、進路実現達成のための活動に重点を置く）

第五段階：未来への準備をする（進路決定後の不安感等を取り除き、期待感をもたせる活動を重点的に行う）

系統的なキャリア教育は、それぞれの段階を踏んで活動することにより、よりねらいが明確になり、伸ばしたい諸能力を身に付けさせて活動することができるのとらえる。

この五つの段階を【図3】のようにまとめた。



【図3】系統的なキャリア教育を五つの段階に分けたイメージ図

さらには、総合的な学習の時間と特別活動において、キャリア教育のねらいに沿って取り組める活動に関連付けて指導することにより、以下のことが可能になる。

- ①教師間で活動内容の共通理解が図られ、様々な活動において意図的にキャリア教育のねらいを意識させることができる
 - ②他教科や日常生活での指導、部活動や委員会活動でも、キャリア教育のねらいに沿った指導が行える
- (5) 総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プラン作成にかかわる考え方
総合的な学習の時間と特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランは、大きく分けて三つの内容で作成する。
- ア 諸能力育成の視点を入れた系統的な活動計画
 - イ 必要に応じた学習内容を記録するワークシートの活用方法
 - ウ 実践過程での評価や活動計画の見直しの方法
- である。

ア 諸能力育成の視点を入れた系統的な活動計画について

(7) キャリア教育全体計画の作成

キャリア教育を推進するためには、キャリア教育全体計画を作成する必要がある。それぞ

れの学校の実態を押さえ、生徒に身に付けさせたい諸能力などを明確にし、キャリア教育を推進していく必要がある。本研究では、前川（2006）が作成したキャリア教育全体計画を基に、提示する。

(イ) キャリア教育のねらいに沿った活動内容の整理

これまでの総合的な学習の時間と特別活動で取り組んでいる活動内容を、キャリア教育のねらいに沿った内容であるか、整理をする必要がある。その後、総合的な学習の時間と特別活動で系統的に活動できる内容を確認し、実施時間を確保する。

活動内容毎に「キャリア教育のねらい」や「育成する諸能力」等を認識することで、キャリア教育のねらいに沿った活動が可能となる。

(ロ) 職員間の共通理解を図る

それぞれの活動内容をキャリア教育の勤労観・職業観を育成するための諸能力に照らしあわせてみると、各教科や部活動指導等でも連動させて指導できる活動内容もある。手引きにおいては、キャリア教育を推進するには、職員間で共通理解を図り、全職員で取り組むべきと示されている。

そのためには、キャリア教育を推進するための組織作りをし、位置付けや活動内容について、随時職員に伝える必要がある。

例えば、職員会議の議題で取り上げたり、一つの活動が終了した段階で全職員に対してどのような内容が行われたのか、各教科や部活動指導等でも指導できるポイント等をプリント化し、配布したりすることによって、職員間の共通理解が図れる。

イ 必要に応じた学習内容を記録するワークシートの活用方法について

ここでいうワークシートは、生徒に様々な体験や学習内容、感想や気付きを記入させることにより、新たな発見、興味・関心を気付かせるシートを指す。ワークシートをポートフォリオすることにより、生徒が振り返りや自己の変容に気付くことができる。

また、進級時のクラス替えて担任が替わった場合でも、ポートフォリオがされていれば、生徒の勤労観・職業観を始め、意識の変容過程等を引き継ぐことができる。

宮下（2006）も、ワークシートや資料のポートフォリオが、生徒の変化や教師の取り組みの評価にきわめて有効な情報として活用できると指摘している。

このワークシートを有効活用するために、担任もしくは指導者に対して、該当する活動の指導ポイント等の留意点を記載したマニュアルを作成する。

ウ 実践過程での評価と活動計画の見直しの方法について

ワークシートで生徒が記入した内容は、教師の取り組みの評価にも活用できる。また、キャリア教育実施後の評価について、宮下（2006）は、計画した活動が効果を上げつつあるかどうか、予想しなかった問題や課題が起きていないかどうか、場合によっては活動内容の修正が必要かどうかを確認する「実践過程での評価」を行うことと、活動計画の修正が必要かどうか、目標が達成されたか、を確認する「活動計画の見直し」を行うことが大切であると指摘している。

本研究においては、それぞれの活動内容がキャリア教育のねらいに到達しているか確認することを「実践過程での評価」ととらえる。「実践過程での評価」は活動内容を振り返り、生徒に対して効果はどうか、生徒の反応はどうか、実践上の課題があったか等を判断することである。

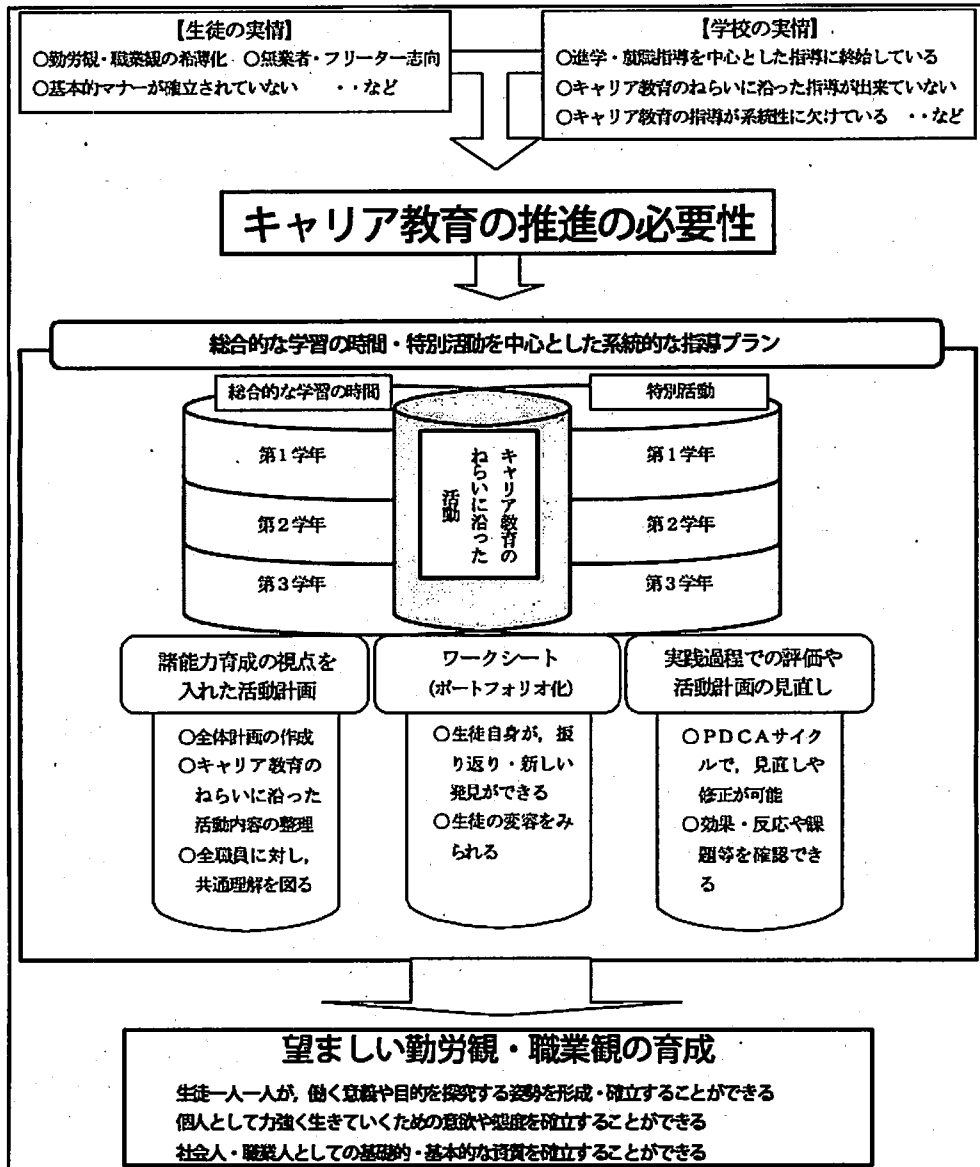
また、学期単位や年間の活動が終了した段階で、学年もしくは全体のキャリア教育のねらいに到達しているかを確認することを「活動計画の見直し」ととらえる。「活動計画の見直し」は学年毎に設定したキャリア教育の目標に到達したか、計画が生徒に対し、有効なものであったか、改善すべき点はどこなのかを判断することである。

生徒の現状にあわせて、修正・改善を行うことにより、PDCAサイクルができ、学校独自のキャリア教育を進めることができる。

これまで、キャリア教育にかかわる様々な取り組みが単発的になりがちであったが、実践過程での評価と活動計画の見直しを取り入れることにより、教師側が何をすべきか、どのように取り組ませるべきかが一層明確になる。

(6) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践する指導プランの作成に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する基本構想図を【図4】のようにまとめた。



【図4】高等学校における系統的なキャリア教育を実践する指導プランの作成に関する基本構想図

2 基本構想に基づく手だての推進試案

総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的な指導プランの作成にかかわる手順を9頁の【図5】のように示す。

計画段階では、各学校の目標や生徒の実態を踏まえた全体計画を作成し、総合的な学習の時間と特別活動の活動内容と、キャリア教育のねらいに沿った活動内容の整理を行う。その上で、職員間の共通理解を図る。実践段階では、諸能力育成の視点を入れた活動計画やワークシートを作成する。

また、実践過程での評価や活動計画の見直しの方法を考える。

以下、各段階における具体的な手順について述べる。

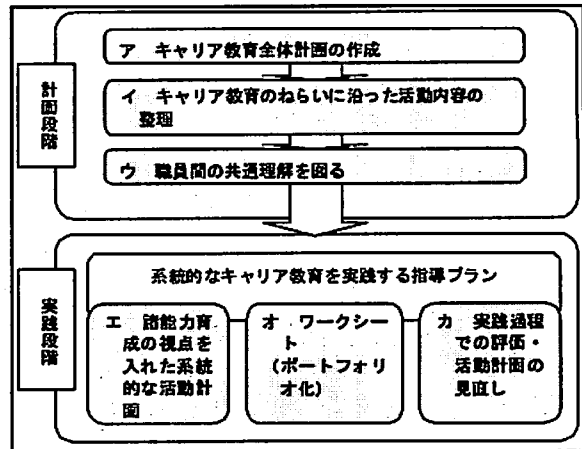
(1) 計画段階

ア キャリア教育全体計画の作成について

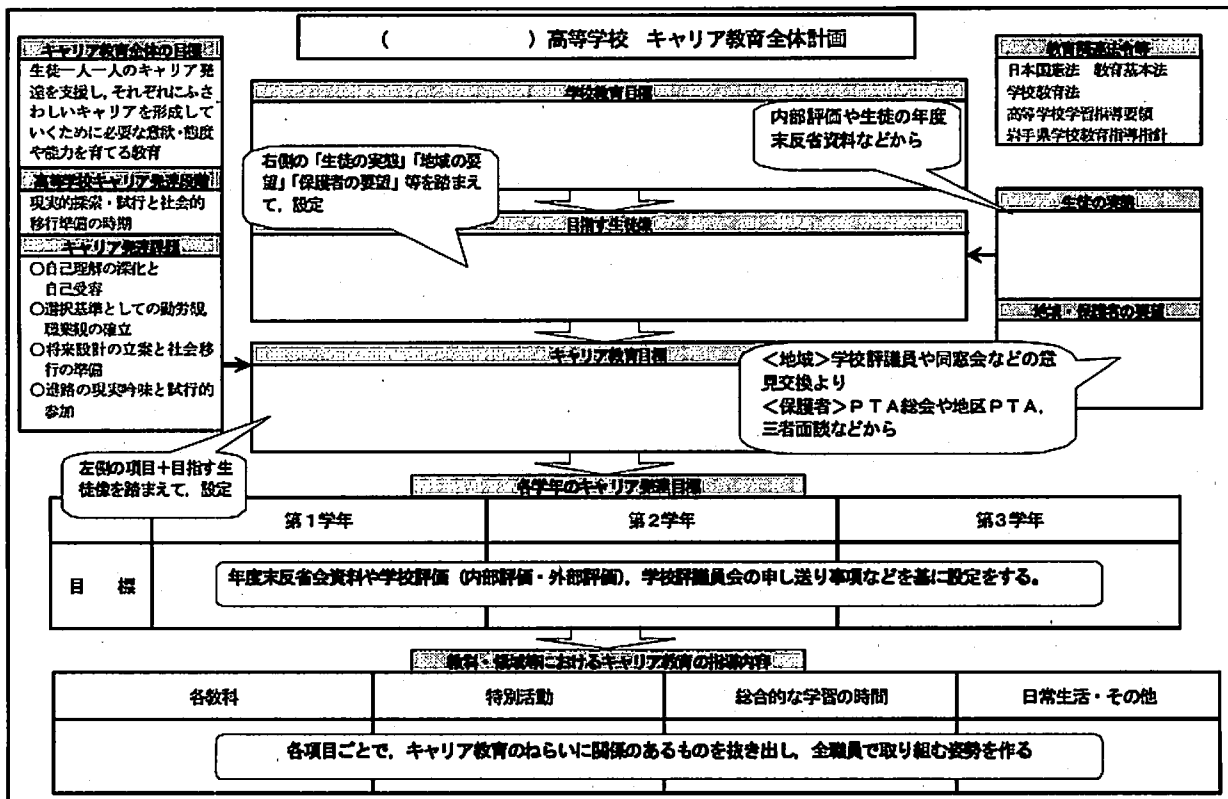
キャリア教育の位置付けを明確にし、組織的・系統的に展開させるために、キャリア教育全体計画を作成する。

これはキャリア教育を、学校のどの場で、どのように実施するか、学校教育での位置付けを示したものであり、学校の基本的な考えを示したものである。

キャリア教育全体計画（【図6】）に記載する内容は、学校教育目標、目指す生徒像、地域や保護者の要望、学年の発達段階に応じた目標、教科・領域等での指導内容等とする。



【図5】系統的な指導プランを作成するまでの手順



【図6】キャリア教育全体計画

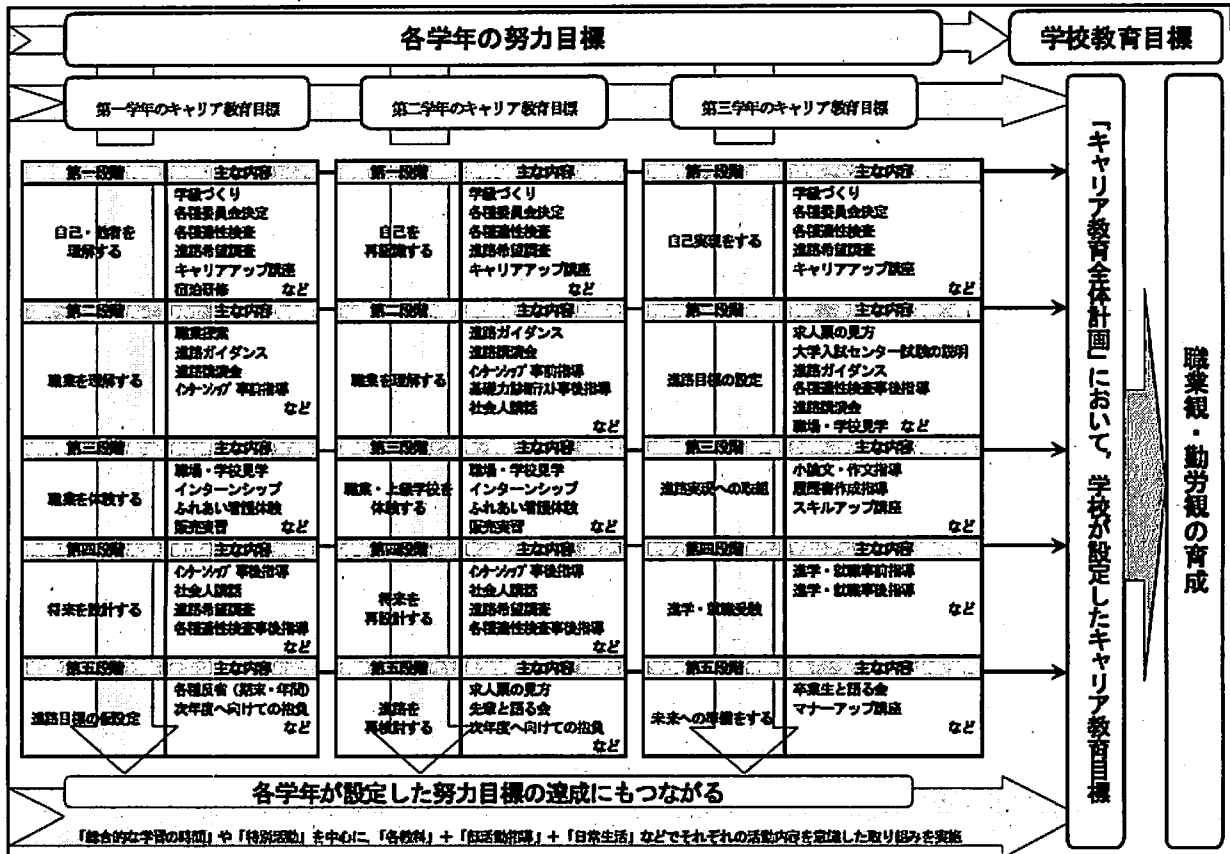
イ キャリア教育のねらいに沿った系統的な活動内容の整理について

キャリア教育で育成する能力・態度は、各学年の発達段階に応じて、生徒指導研究センターから示された枠組み（例）及び学校の目標や実態、生徒に身に付けさせたい能力を分析した上で設定する。

また、年度末の反省会資料や学校評議会、学校評価等を活用することにより、具体的な能力・態度の設定ができる。キャリア教育を推進する上で、中心的な活動になる総合的な学習の時間と特別活動の活動内容を整理することにより、キャリア教育のねらいに沿った活動内容が明らかになる。

整理の方法は、これまで取り組んできた活動内容が、キャリア教育のねらいに沿った活動内容か、系統性がある活動内容か、等で整理し、活動計画を作成する際の参考として活用する。

これまで行っている学校行事や総合的な学習の時間・特別活動の活動内容を、キャリア教育のねらいに沿った系統性のある活動内容として整理すると、【図7】のようになる。



【図7】キャリア教育のねらいに沿った活動内容の整理(例)

ウ 職員間の共通理解について

キャリア教育を推進する上でポイントとなるのが、職員間の共通理解である。これは、キャリア教育の位置付けを明確にさせるためにも、大切な部分である。

年度初めの職員会議等で、キャリア教育の活動計画を全職員に示し、共通理解を図る。

さらには、実践過程での評価を定例職員会議において報告、検討・改善することで、翌月以降の活動にもいかせると考える。

職員会議を活用したキャリア教育の位置付けを明確にさせる方法を、【表2】に示す。

また、それぞれの活動が終了した段階で、全職員に対し、どのような

内容で行われたのか、各教科や日常生活の指導において、どのような視点でキャリア教育を行えばよいのか等、を簡単にまとめたプリント(【11頁図8】)を作成・配布することにより、教師も

【表2】職員会議を活用した職員間の共通理解を図る方法

2~3月	○来年度の計画立案
4月	○年度初職員会議で計画案の提示・説明 ○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示
5~7月	○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示 ・改善すべき点の報告
夏季休業	○中間のまとめ・活動終了時の評価
8月	○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示 ・改善すべき点の報告 ○中間のまとめ・活動終了時の評価の報告
9~12月	○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示 ・改善すべき点の報告
冬季休業	○中間のまとめ・活動終了時の評価
1月	○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示 ・改善すべき点の報告 ○中間のまとめ・活動終了時の評価の報告
2月	○定例職員会議にて進捗状況・翌月の活動内容詳細提示 ・改善すべき点の報告 ○来年度の計画立案
3月	○定例職員会議にて進捗状況・改善すべき点の報告 ○全職員を対象に評価を行う ○年間のまとめ・キャリア教育全体にかかわる評価 ○来年度の計画立案

様々な生徒とのかかわりの中でキャリア教育の諸能力育成を意識しながら、指導に取り組めるものとする。

(2) 実践段階

ア 諸能力の視点を入れた系統的な活動計画の作成について

キャリア教育のねらいに沿って整理された活動内容を基に、活動計画【図9】を作成する。

一つ一つの活動をとおして育成する能力とその重点を明記することにより、担任もしくは指導者が意識して活動に取り組むことができる。

また、振り返りの活動を明記することで、担任もしくは指導者も以前の活動を振り返りながら、生徒に支援ができ、系統的な指導が可能となる。

指導内容には、その活動で行う流れやワークシートの活用方法、指導上の留意点を具体的に盛り込んでいくことにより、初めてキャリア教育に携わる教師にも、ポイントを押さえて取り組むことが可能となる。

イ ワークシートについて

ワークシート(12頁【図10】)は、生徒がキャリア教育の活動に対して、気付きや振り返りを行うためのものである。

ワークシートとともに、教師側に対し、指導のポイントや留意点も記載したマニュアル(12頁【図11】)を活用することで、キャリア教育のねらいをとらえ、より意識した指導が可能となる。

マニュアルには、この時間を活用して育成したいキャリアの能力、キャリア教育に沿った指導のねらい、指導の工夫や留意点、ワークシートの活用方法例、実践活動後の評価内容や生徒が使用するワークシートの記入例等、を明記する。

また、ポートフォリオができ、継続して活用できる内容のワークシートを作成する。

生徒側は、次の活動で前時に行った内容を振り返りながら、活用することが可能になる。自己の気持ちや考えを前年や数ヶ月前と比較したり、調べ学習をした内容などを振り返ることによって、新しい発見や興味・関心を膨らませたりすることができる。

教師側は、実践過程での評価や活動計画の見直しの材料とすることができる。

また、クラス替え等により担任が替わっても、ポートフォリオがされていれば、引き継いだ生徒の変容や進路に対する考え方等も理解が可能になり、三者面談や進路相談を行う際にも活

キャリア教育推進だより
(活動が終わった段階で作成・配布)

実施学年：第2学年
6月22日 6校時実施

<進路講演会の内容紹介>
講師：〇〇〇氏
勤務先：株式会社△△△△△
この業界のママ知識：……

様々な職種を共通理解してもらう

講演会の内容や実際行った内容など具体的に記載する

実施学年・クラス等を明記することにより、教科担任や部活動顧問などへ意識付け

各教科や部活動指導等、日常生活から指導できる内容を具体的に記載する

講師から学ぶ！ 授業・活動からできるキャリア教育 (授業の導入などで活用してください)

〇あいさつはしっかりと覚えて欲しい → 授業の最初と最後はしっかりと指導を！
〇……… → 四教科でも取り上げて欲しい

【図8】 活動内容をまとめたプリント例

第五段階「進路を再検討する」

第四段階「将来を再検討する」

第三段階「職業・上級学校を体験する」

第二段階「職業を理解する」

第一段階「自己を再認識する」

実施月	主な活動内容	この時間でも育成できる諸能力	指導内容	振り返りの活動

【図9】 諸能力の視点を入れた系統的な活動計画 (第2学年を例として)

用できる。

社会人講話

【活動のねらい】

○ (人間関係形成力) 一人の役割
 ○ (社会生活能力) 生活の自立・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割

【活動内容】

【振り返り】

この場面で気付いた・知ったこと
 (自分でも書いてよい)

自分で行動に移してみたいこと
 (自分でも書いてよい)

1 講師の方の発言に感銘を受けた点がありますか? YES / NO
 2 YESの理由、なぜか記入してください

【図10】ワークシートの一例

ウ 実践過程での評価・活動計画の見直しの方法について

評価については、大きく分けて二つ設定する。一つ目は実践過程での評価、二つ目は活動計画の見直しである。具体的な評価の考え方を13頁の【図12】に示した。

実践過程での評価は、現在行っている活動内容が、事前にキャリア教育のねらいとして設定していた、身に付けさせたい能力・資質が着実に付いているか、変容がみられるか、等である。

評価の方法は、キャリア教育のねらいに沿った活動内容に対して、効果や反応はどうか、実践上の課題があったか等、をワークシートや生徒の感想・行動等で判断する。

課題があった場合は、担任もしくは指導者などで相談をし、次回に改善できる内容であれば、改善を加えた活動内容で取り組む。

また、次回までに改善できない内容であれば、改善すべき内容を蓄積しておき、活動計画の見直しや次年度の計画立案の際に検討を行う。

活動計画の見直しは、学期単位や年間をとおして取り組んだ活動内容が、学年毎に設定したキャリア教育の目標に到達したか、計画が生徒に対して有効なものであったか、改善すべき点はどこなのかを検討するものである。

また、年度末の反省では、キャリア教育全体計画に対して、様々な視点から振り返り、修正点・改善点を明確にし、次年度への計画・立案へいかしていく。

社会人講話

【この時間で育みたいキャリアのねらい】

○ (人間関係形成力) 一人の役割
 ○ (社会生活能力) 生活の自立・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割

【活動のねらい】

必要な時間数や活動場所などを明記する

【活動の工夫(留意点)】

1 他者の価値観を受け入れ
 2 自分の得意と関連付けさせる
 3 次のステップへとつなげる

【活動のポイント】

1 他者の価値観を受け入れ
 2 自分の得意と関連付けさせる
 3 次のステップへとつなげる

時間	活動内容	指導者の留意点やポイントなどを明記する
0分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
5分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
10分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
15分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
20分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
25分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する
30分	この時間活動内容と流れを明記する	どのように指導・支援を行えばよいかを明記する

【実践過程の評価】

○ (人間関係形成力) 一人の役割
 ○ (社会生活能力) 生活の自立・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割・投資
 ○ (社会生活能力) 一人の役割

【ワークシートの記入例と見直しの視点】

記入例

見直しの視点

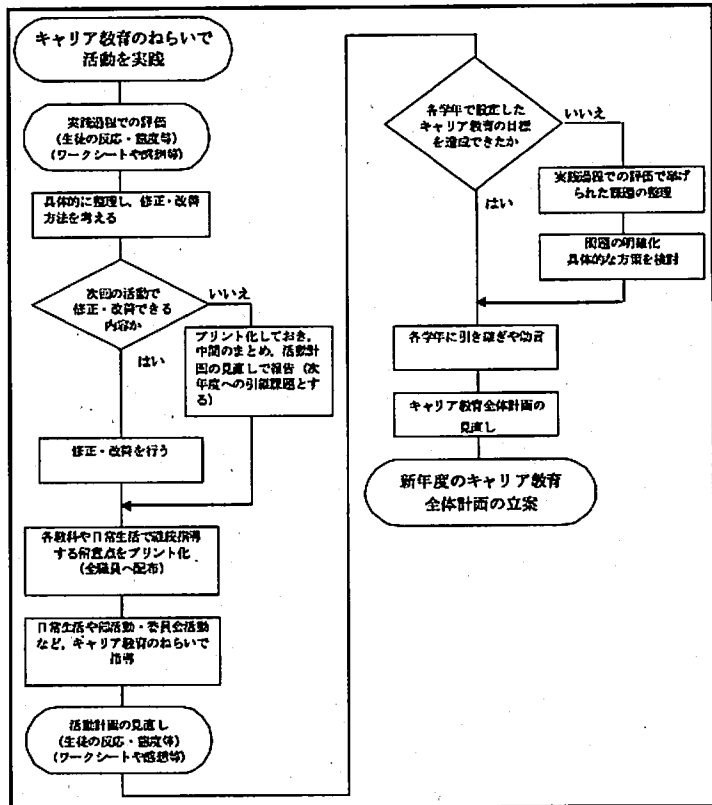
この場面で気付いた・知ったこと
 (自分でも書いてよい)

自分で行動に移してみたいこと
 (自分でも書いてよい)

【図11】ワークシートを使用する際の指導のマニュアル例

これにより、PDCAサイクルが可能となり、系統的・持続的なキャリア教育ができる。

以上のことを踏まえ、本研究における指導プランは【図13】のように示す。



【図12】 実践過程での評価・活動計画の見直しの考え方

第2学年 キャリア教育目標：将来設計を定め、学力と自己の能力を伸ばそう						
具体的目標		①幅広い進路、職業、生き方の理解 ②企業調査、職場、学校訪問等による自己の価値観、職業観の検証 ③将来の志願を明確にし、将来設計の時代				
7月	職業力診断テスト (1時間)	職業力診断テストの結果を基に、自己の強みや弱みを把握し、将来の志願を明確にする。				
8月	企業調査 (1時間)	企業調査の結果を基に、自己の価値観や職業観を検証し、将来の志願を明確にする。				
9月	職場訪問 (1時間)	職場訪問の結果を基に、自己の価値観や職業観を検証し、将来の志願を明確にする。				
10月	将来設計の作成 (1時間)	将来設計の作成を通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				
11月	キャリア教育の振り返り (1時間)	キャリア教育の振り返りを通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				
12月	キャリア教育の振り返り (1時間)	キャリア教育の振り返りを通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				
1月	キャリア教育の振り返り (1時間)	キャリア教育の振り返りを通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				
2月	キャリア教育の振り返り (1時間)	キャリア教育の振り返りを通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				
3月	キャリア教育の振り返り (1時間)	キャリア教育の振り返りを通じて、自己の価値観や職業観を明確にし、将来の志願を明確にする。				

【図13】 総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的な指導プラン

3 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 分析・考察の内容と方法

総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的な指導プランに関する手だての推進試案に

基づき、研究協力校の指導プランを作成し、授業実践を行った。

実践をとおして、研究協力校の教師を対象に、「諸能力育成の視点を入れた活動計画の妥当性（系統性の明確化、よかった点、改善点）」、「ワークシート活用の有用性（よかった点、改善点）」、「実践過程での評価」、「その他」に関して評定尺度法と自由記述法併用のアンケートを行い、それに基づいて分析・考察する。その計画は【表3】のとおりである。

【表3】分析・考察の内容と方法

調査項目	対象	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
諸能力育成の視点を入れた活動計画の妥当性	教師	系統性が明確になったか	質問紙	実践後に調査を行い、その記述内容から諸能力育成の視点を入れた活動計画の妥当性について、分析・考察する
		活動計画のよかった点		
		活動計画の改善点		
ワークシート活用の有用性	教師	ワークシートのよかった点	質問紙	実践後に調査を行い、その記述内容からワークシートの有用性について、効果があったかどうかとその根拠を分析・考察する
		ワークシートの改善点		
実践過程での評価の妥当性	教師	キャリア教育のねらいを意図して活動に取り組めたか 課題が明確になり、次に改善させることができたか	質問紙	実践後に調査を行い、その記述内容から実践過程での評価について、継続的な指導につながるかどうかとその根拠を分析・考察する

(2) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プラン実践の概要

ア 授業実践の計画

(ア) 対象 岩手県立盛岡商業高等学校 第2学年（男子126名 女子154名 計280名）

(イ) 授業実践期間 平成20年8月22日～11月7日

(ウ) 指導計画 第一段階「自己を再認識する」……………1時間
第二段階「職業を理解する」……………9時間
第三段階「職業・上級学校を体験する」…2時間
第四段階「将来を再設計する」……………6時間

※太枠は、研究者が実践にかかわった時間を表す

【資料1】第一段階「自己を再認識する」の指導計画

時	活動内容	ねらい
1	基礎力診断テストを実施	○自己の職業的な能力や学習知識の定着度合いを客観的測定から知る
2	基礎力診断テストの事後指導	○自己の能力・適性を理解し、受け入れて伸ばす ○今取り組むべき学習や活動を理解する ○様々な情報を収集・探索し、自己の進路の視野を広げる ○進路希望の実現を目指して、問題をどのように解決すればいいのかを考える

【資料2】第二段階「職業を理解する」の指導計画

時	活動内容	ねらい
1	社会人講話	○他者の仕事に対する価値観を聞き、受け入れる
2		○必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える ○生活・仕事上の多様な役割や意義を理解する ○選択基準となる自分なりの勤労観・職業観をもつ
3	社会人講話の事後指導	○学校や社会において、自分が果たすべき役割を自覚する ○生きがい・やりがいを見つけ、自己をいかせる進路実現を現実的に考える ○自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を考える
4	企業調査・研究 (事前指導)	○企業活動や企業組織の基本的な理解を深める
5		○職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集める ○グループ編成をすることにより、コミュニケーション能力を育成する
6	企業調査・研究 (企業の基本調査)	○企業活動や企業組織の基本的な理解を深める
7		○職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集める ○自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす

8	企業調査・研究 ・ (マナー指導と	○企業訪問をとおして、社会人としてのマナーやエチケットを身に付ける ○学んだことを学校生活でも継続して行うことにより、社会人としての心構えを身に付ける
9	ロールプレイング)	

【資料3】第三段階「職業・上級学校を体験する」の指導計画

時	活動内容	ねらい
1	企業調査・研究 ・ (企業訪問)	○勤労観・職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める
2		○生きがい・やりがいがあり、自己をいかせる生き方や進路を、企業訪問をとおし、現実的に考える ○社会規範やマナー等の必要性や意義を、体験をとおして理解し、習得する



【資料4】第四段階「将来を再設計する」の指導計画

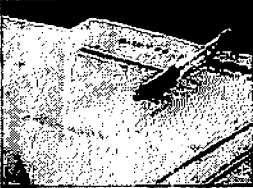
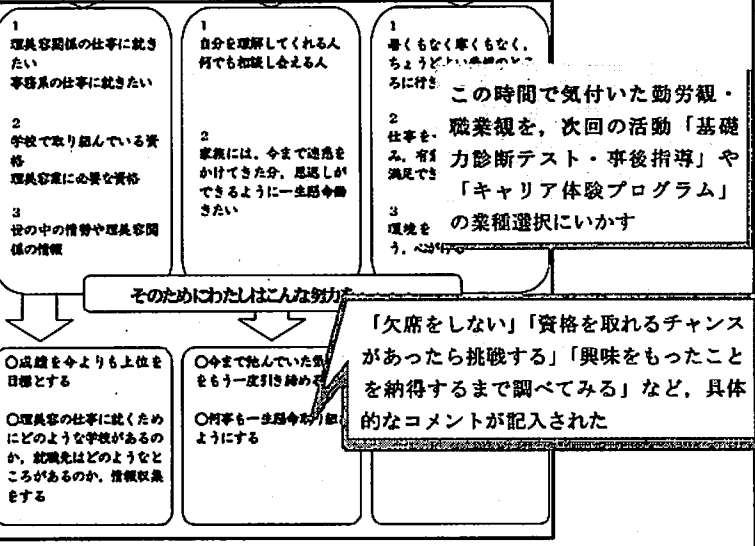
時	活動内容	ねらい
1	企業調査・研究 ・ (企業訪問のまとめ)	○勤労観・職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める
2		○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する ○生きがい・やりがいがあり、自己をいかせる生き方や進路を現実的に考える
3	企業調査・研究 (礼状作成)	○社会規範やマナー等の必要性や意義を、体験をとおして理解し、習得する ○自己の思い等を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する
4	企業調査・研究 (個々の振り返りと反省)	○理想と現実との葛藤経験等をとおし、様々な困難を克服するスキルを身に付ける ○進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する ○将来設計、進路計画の見直し・再検討を行い、その実現に取り組む
5	企業調査・研究 ・ (発表会準備)	○調べたことを自分の考えを交え、各種メディアをとおして発表・発信する
6		○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する
7	企業調査・研究 ・ (発表会)	○調べたことを自分の考えを交え、各種メディアをとおして発表・発信する
8		○多様な勤労観・職業観を理解し、勤労・職業に対する理解・認識を深める ○将来設計に基づいて、今取り組むべき活動や学習を理解する

イ 授業実践の概要

手だての推進試案に基づいて作成した指導展開案【資料5～6】に従い、授業実践を行った。

【資料5】授業実践の概要

第二段階「職業を理解する」・・・社会人講話(事後指導)		
<本時のねらい> ○学校や社会において、自分が果たすべき役割を自覚する ○生きがい・やりがいを見つけ、自己をいかせる進路実現を現実的に考える ○自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を考える		
段階	活動の流れ	活動の様子 教師の働きかけ 生徒のコメント
導入	1 本時の活動内容の確認する	 <p>前時にワークシートを用い、社会人講話の内容を振り返り、本時のねらいを説明する</p>
展開	【白他の理解能力の育成】 2 前時の講話から、「気付いたこと・知ったこと」「行動に移してみたいこと」「確認項目」を振り返りながら、発表する	 <p>「こんな仕事があるとは知らなかった」「自分の就きたかった仕事だったけど、色々な知識が必要なんだなあ」と知った」など</p> <p>生徒同士で、「社会人講話で感じたこと」を聞くことにより、互いを認め合い、違う価値観があることを意識させる</p>

展開	3 ワークシート前半部分を記入する (15分程度)	 <p>「社会人講話」のワークシートと本時のワークシートを活用し、働く意義を感じさせる</p> <p>「他者の話を聞くこと」「自分が感じたこと」を振り返ることによって、新たな気づきが生まれる</p>
	<p>【情報収集・探索能力の育成】</p> <p>4 ワークシート後半部分を記入する (10分程度)</p>	
まとめ	<p>【役割把握・認識能力の育成】</p> <p>【選択能力の育成】</p> <p>5 それぞれの項目が、今後の学校生活を送る上で、どういう意味をもっているのかを理解する</p>	 <p>この時間で気付いた勤務観・職業観を、次回の活動「基礎力診断テスト・事後指導」や「キャリア体験プログラム」の業種選択にいかす</p> <p>「欠席をしない」「資格を取れるチャンスがあったら挑戦する」「興味をもったことを納得するまで調べてみる」など、具体的なコメントが記入された</p>

<生徒の記述から>

- ・授業に集中する、家庭学習を行うことにより、成績向上や各種検定試験の合格につながることに気付いた
- ・新聞や専門誌などを活用し、情報収集をしなければならなかった
- ・規則正しい生活をする、目標をもって生きていく、あいさつの大切さや人に対する接し方を学んだ


<ワークシートを活用した指導者の感想> △は良かった点 ▼は改善点

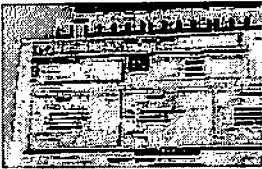
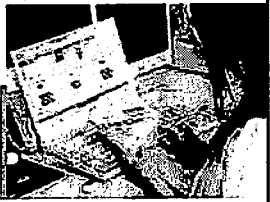
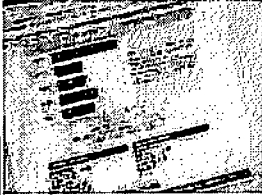


△後半以降では、自分が取り組む具体的な内容が記入されており、意思決定能力を伸ばすことができた

△それぞれの項目で記入した内容は、「努力でできる」「心構え一つでできる」「常に心の中に目標をもてる」という解説を行うと、生徒はもう一度見直し、納得している感じであった

▼抽象的に記入する生徒が全体の1割程度おり、そのような生徒達を想定し、より記入し易い設問項目を設けることが必要だと思う

【資料6】授業実践の概要

第一段階「自己を再確認する」・・・基礎力診断テスト (事後指導)		
<p><本時のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の能力・適性を理解し、受け入れて伸ばす ○今取り組むべき学習や活動を理解する ○様々な情報を収集・探索し、自己の進路の視野を広げる ○進路希望の実現を目指して、問題をどのように解決すればいいのかを考える 		
段階	活動の流れ	<p>活動の様子</p> <p>教師の働きかけ</p> <p>生徒のコメント</p>
導入	<p>【役割把握・認識能力の育成】</p> <p>1 本時の活動内容の確認をする</p>	 <p>返却された結果を基に、本時のねらいを説明する</p>

展開	<p>【自他の理解能力の育成】</p> <p>2 基礎力診断テストの結果を、ワークシートに記入しながら、振り返る</p>	 <p>検査結果は、参考資料とし、自分を理解するための資料であることを確認する</p>
	<p>3 インターネットを使い、実施業者サイトへアクセスし、適性職業・適性学問の診断チェックを行う</p>	 <p>実施業者のインターネットサイトに接続し、適性職業・適性学問の診断チェックをし、自分の知らない職業や上級学校などに気づき、視野を広げる</p>
まとめ	<p>4 「社会人講話」のワークシートを振り返り、診断された職業と一致する職業があるか、照らしあわせる</p>	 <p>「社会人講話」で講師として来た方の職業を検索し、どのような仕事内容、技術・知識が必要かを調べる</p>
	<p>5 診断された職業や学校の詳細を調べる</p>	 <p>「こんな職業って、どこにあるんだ？」 「俺が希望している職業があるっ！」 「この技術ってこんな学校で教えているんだあ」 「東北にこんな学校あるの？」 など、生徒の視野が広がった</p>
まとめ	<p>【課題解決能力の育成】</p> <p>6 希望している進路と適性診断の結果を比較し、今後の努力すべき内容を見つけ出す</p>	 <p>「私が就きたい仕事って色んな資格をもっていないと就けないんだ。じゃあ検定試験、頑張ってみよう！」 「考えていた進路って、簡単に就けないんだ、考え直してみようかな」 など、より現実味を増した職業観を付けることができた</p>
<p><生徒の声から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで知らない職業を知ることができ、自分の考えていた職業とは別に、他の職業にも興味湧いてきた ・自分が考えていた進路と一致していたので、今後は希望する進路の情報収集を行いたい ・その仕事に就くためには、上級学校に進学しなくてはならないことに気付いた ・どのような仕事に就きたいかはっきり決まっていなかったが、自分の適性を客観的に見ることで、自分の将来を考えるきっかけになった <p><ワークシートを活用した指導者の感想> △は良かった点 ▼は改善点</p> <p>△実施業者のインターネットサイトへ接続する方法が記載されているので、指導者の説明に間にあわなくても、「操作の流れ」を確認することで生徒は迷うことなく、アクセスできた</p> <p>▼【今回の成績】の記入スペースが狭い感じなのでもう少し余裕を持たればよい</p>		

(3) 実践結果の分析と考察

授業実践をとおして、研究協力校の教師を対象に手だての有効性をみるため、検証計画に基づき調査を行った。また、生徒の意識変容についてワークシートを使って分析し、育成状況をとらえた。

ア 諸能力の育成の視点を入れた活動計画の妥当性について

指導者の意見として、「これまでの活動が単発的で、職業・進路意識の向上につながる活動が一時的なものであったが、系統性をもちつつ、指導を行うことができた」や「これまでは、その時間の進め方など悩みそうな活動もあったが、活動計画の中で指導の流れが明確になっており、分かりやすかった」のような記述が見られた。

また、調査の結果では、キャリア教育の諸能力の視点を取り入れることにより、活動計画が明確になるという回答が45.4%、やや明確になるという回答が45.5%となり、あわせて90%近くが肯定的な回答となった（【図14】）。

これは、キャリア教育のねらいや諸能力の育成を意識することで、指導の内容に厚みが出てきたためと思われる。

以上のことから、諸能力育成の視点を入れた活動計画には、妥当性があると思われる。

しかし、年間をとおしての活動計画が不透明な部分もあり、今後どのような活動を展開するかによって、系統的な活動計画がよりみえてくるものと思われる。

また、長期にわたる活動（インターンシップや企業訪問等）に関しては、活動を行う前に、核となる職員が担任及び指導者と最終目標までを確認して取り組みを行わなければ、系統性がみえにくい点も明らかになった。この点は、今後の改善点として検討していきたい。

イ ワークシート活用の有用性について

調査の結果から、ワークシートを活用することは、有用であったと考えられる（【図15】）。

これは、以前に行った指導を振り返らせることが、容易にできるようになったためと思われる。

また、「長い記述欄が少なく、記入しやすかった」、「生徒に身に付ける能力を評価できる形式であったため、活動の評価もしやすかった」など、指導者や生徒に組みやすい内容であったと思われる。

しかし、生徒が記述したワークシートを担当が、学級経営でどのようにいかしていくか等の参考資料があれば、なお有用性が高まるという意見もあった。

この点は、指導展開案の中に、担任が日常生活で活用できる方法を記載し、より系統的なキャリア教育を行えるような内容に改善していく。

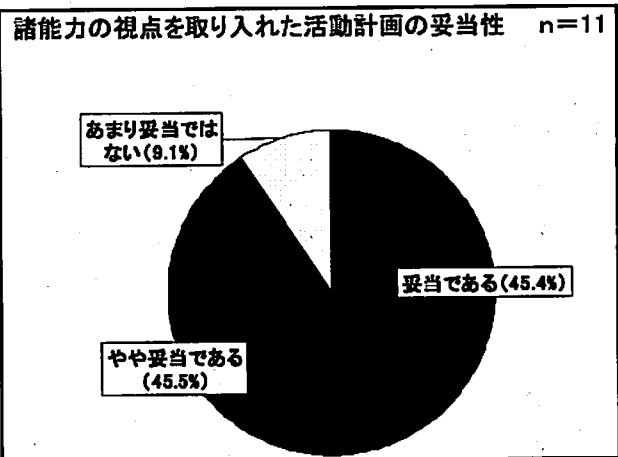
ウ 実践過程での評価について

キャリア教育のねらいを意識して活動に取り組めたという回答が45.4%、やや取り組めたという回答が45.5%となり、肯定的な回答をあわせると90%を超えた（【図16】）。

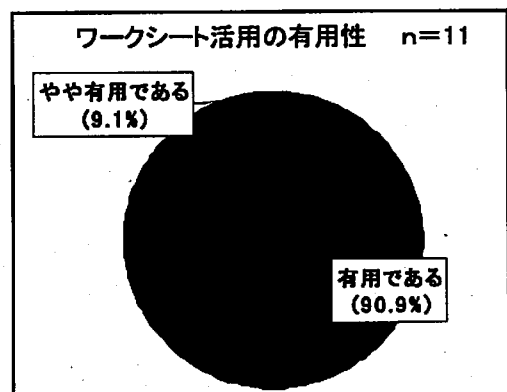
これは、指導展開案や生徒が使用するワークシートにねらいを明記したためと思われる。

また、課題が明確になった場合、改善・修正し、次の活動で改善させることができた（54.5%）、ややできた（36.4%）という肯定的な回答も90%を超えた（19頁【図17】）。

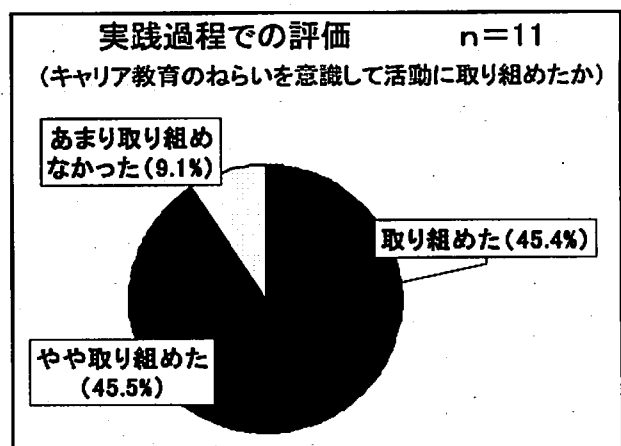
これは、指導者がキャリア教育のねらいを意



【図14】 諸能力の視点を取り入れた活動計画の妥当性



【図15】 ワークシート活用の有用性



【図16】 キャリア教育のねらいを意識して活動に取り組めたか

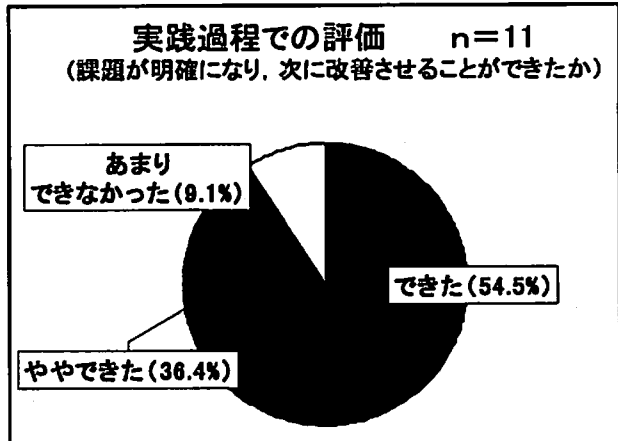
識して活動に取り組みさせることにより、生徒に身に付けさせたい能力が備わってきているかどうかを、判断できるようになったためと考えられる。

以上のことから、実践過程での評価を行うことは、その時間での課題も明確になり、早期の対応もでき、PDCAサイクルにもつながり、系統的・持続的なキャリア教育に資するものと考えられる。

エ 生徒の意識変容について

キャリア教育を意識した活動を行うことによって、生徒個々にも変容が見られた。

【資料7】は、キャリア教育で育成する諸能力にかかわる意識の変容を生徒のワークシートの記述内容から分析し、考察を行ったものである。生徒も様々な活動をとおして、諸能力も伸び、勤労観・職業観が育成されつつあると考えられる。



【図17】課題が明確になり、次に改善させることができたか

【資料7】諸能力の意識の変容状況についての分析と考察

人間関係形成能力にかかわる変容	<ul style="list-style-type: none"> ・色んな人に支えられて、生きてきたことが分かったので、感謝の気持ちを持って生活したい。 ・親に感謝し、家族に心配をかけないようにする。 ・色んな人を知ることができるので、交友関係を広げるよう心がける。 ・学級や部活動の友人以外の交流を多く持つようにして、コミュニケーションを大切にす。 ・困っている人を助けてあげられるような力を身に付け、貢献したい。 ・新しい友人をつくり、相手の気持ちになって考え、人間関係をよくするように心がける。 ・初対面の人も笑顔で明るく話すようにする。 <p>など、社会人講話の内容より、「コミュニケーションの大切さ」や「友人、家族を大切にす」等の記述が多かった。また、社会人講話の事後指導から、他者を思いやる具体的な記述が多かった。これらの記述は、キャリア教育の基礎基盤となる人間関係の重要性の認識を示すものと考えられる。</p>
情報活用能力にかかわる変容	<ul style="list-style-type: none"> ・会社に貢献するだけが仕事ではないことに気付いた。 ・一つの職業でも、色々な職種から成り立っていることを理解した。また、入社しても、色々な部署に携わり、仕事をしていくことに驚いた。 ・お客様のことを考えて、仕事をする精神に感動した。 ・将来就きたい職種は、どのような仕事を行っているのか、情報収集を行いたい。 ・仕事をするということは、お金を伴う分、責任も大きくなることを知った。 ・嫌々仕事をして辛いだけなので、具体的な目的を見つけて仕事をする、仕事の魅力がみつけれれることを教わった。早速、今日から実践してみたい。 ・学校で学んだことが、結構会社でも使われていることを理解した。資格取得だけでなく、普段の授業もちゃんと受けたい。 <p>など、社会人講話の事後指導や基礎力診断テストの事後指導から、新しい職業を知ることができた。また、社会人講話の講師より、職業観を感じ取ることによって、これまでもっている職業観は狭い範囲であったことに気付いた記述が多い。さらには、「上級学校の調査」や「希望職種の業務調査」を行いたいといった具体的な行動を記述する生徒が多かった。</p> <p>これらの記述は、「働くことの意義」を理解し、「学ぶことの大切さ」に気付き、自己の進路や生き方の選択につながったことを示すものと考えられる。</p>
将来設計能力にかかわる変容	<ul style="list-style-type: none"> ・夢を持つことが大切であると思った。 ・自分や地域のために何か手伝えることを考え、参加したいと思う。 ・上司や先生に「言われたらすぐ行動に移す」ことを、実行できるように、毎日の生活を送りたい。 ・失敗を恐れずに行動に移してみたい。そこから感じたり、学んだりするものがあると思う。 ・普段の授業をちゃんと取り組むことにより、資格取得にもつながり、進路選択の幅が広がること

<p>る変容</p>	<p>わかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えていた進路目標を達成するため、何が必要なかが分かった。 <p>など、社会人講話では、「夢や目標をもつ」記述が多かったが、事後指導を行うことにより、目標を達成するための具体的な手だてとして、「学力向上」と「資格取得」を挙げる生徒がほとんどであった。</p> <p>これらの記述は、将来の夢や希望を掲げながら、現実を前向きに見つめ直し、自分が果たすべき役割の認識を示すものと考えられる。</p>
<p>意思決定能力にかかわる変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が希望していた職種には、上級学校に進学後、仕事に必要な知識・資格を取得してから就けることが分かった。そのためには、今学校で学んでいる学習をしっかりと取り組まなくてはいけないことに気付いた。 適性検査の結果から、自分が考えていた進路とは別な職種に適性があることに気付いた。以前から興味をもっていた職種なので、これから情報収集をしたり、色んな講話を聞いたりしながら、真剣に考えていきたい。 社会人講話では、自分の就きたい職種の人が多かった。講師の先生の話を聞き、イメージと違う職業であった。次に予定している企業調査・研究では、就きたい職種を調査したいが、基礎力診断テストで適職と診断された職種を調査してみたい。 <p>など、これまでのキャリア教育にかかわる活動を行った結果、自己の進路希望と適性のギャップに気付く記述が多い。企業調査・研究の活動では、これまでのワークシートを振り返ることにより、自己の適性と新たに身に付いた職業観から、これまで希望していた職種とは違う職種を選択する生徒が多くなった。</p> <p>これらの記述は、これまでの選択肢の中から、比較検討を行い、主体的に判断できる能力が育ちつつあることを示すものと考えられる。</p>

4 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する研究のまとめ

これまで、手だての推進試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を検討した。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

- ア 系統的なキャリア教育を実践するための指導プランは、活動内容毎に身に付けさせたい諸能力を明らかにし、担任もしくは指導者がキャリア教育を意識しながら活動に取り組みせることに有効であった。また、これまで単発的に行われてきた活動を系統的に行うことができたため、生徒の諸能力も伸び、勤労観・職業観を育成することに有効であった。
- イ 身に付けさせたい諸能力を意識したワークシートを作成することにより、生徒も活動のねらいを理解しながら、取り組むことができた。
- ウ 職員間の共通認識を図る「キャリア教育推進だより」を発行するための留意点や活用方法などを明らかにすることができた。
- エ 実践過程での評価を行うことにより、活動内容の問題点等が明らかになり、素早い対応が可能となった。

(2) 課題

- ア キャリア教育をコーディネートする職員と指導者が、活動毎に綿密な打ち合わせを行い、キャリア教育のねらいやその時間に身に付けさせたい諸能力を確認しながら、指導を行うことが必要である。そのために共通認識を図る「キャリア教育推進だより」は、定期的に発行する必要がある。
- イ ポートフォリオされたワークシートを、担任が学級経営で効果的に使用するための活用のポイントを示す必要がある。
- ウ ワークシートは、実践をとおして、さらなる修正と改善を加えていくことが必要である。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、高等学校における総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的なキャリア教育を実践するために役立てようとするものである。そのため、これまで学校で行っていた総合的な学習の時間と特別活動の活動内容を、キャリア教育の視点に照らしあわせ、活動計画を整理することにより、系統性が明確になった。また、生徒も様々な活動をとおして、諸能力が伸び、勤労観・職業観が育成されつつあることが確認された。

なお、成果として次のことを得ることができた。

(1) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する基本構想の立案

基本構想の立案において、系統的にキャリア教育を行うための五つの段階を明らかにし、「諸能力育成の視点を取り入れた活動計画」「必要に応じたワークシート」「実践過程での評価や活動計画の見直し」等を明らかにすることができた。

(2) キャリア教育の発達に基づく指導プラン・ワークシートの作成

手だての推進試案を基に、活動内容に即したワークシートを作成し、系統的な指導が行えるよう、指導展開案を作成することができた。

(3) 授業実践及び実践結果の分析と考察

活動計画に育成する能力と振り返りの活動を明記することによって、指導者がキャリア教育で育成したい諸能力を意識して、系統的に指導できることが明らかになった。

また、ワークシートを活用することにより、生徒に過去の活動内容と感じたことなどを振り返らせ、新たな勤労観・職業観をもたせることができた。

(4) 高等学校における系統的なキャリア教育を実践するための指導プランの作成に関する研究のまとめ

実践結果の分析と考察から明らかになったことをまとめ、指導プランを作成することによって、高等学校キャリア教育において、「勤労観」「職業観」を伸ばすことができるという見通しをもつことができた。

2 今後の課題

本研究においては、第二学年の実践にとどまっていることから、今後、他学年についても実践をとおして指導プランの有効性を更に明らかにする必要がある。

今後の課題としたい。

【おわりに】

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心から御礼を申し上げます。

【引用文献】

- 内田千代子 (2007), 『大学における休・退学, 留年学生に関する調査 第28報』, 茨城大学保健管理センター, pp. 21-22
- 川崎友嗣 (2007), 「キャリア教育とキャリア発達」, 『進路指導』, 日本進路指導協会, p. 43
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2002), 『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書』, p. 36
- 宮下和己 (2006), 「各校におけるキャリア教育への取組とその評価」, 『指導と評価5月号』, 日本図書文化協会, pp. 17-20
- 文部科学省 (2006), 『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き』, pp. 3-6, pp. 9-10, p. 43, p. 56
- 文部科学省 (2007), 『高等学校学習指導要領』, p. 8, p. 385
- 山崎保 (2006), 『キャリア教育が高校を変える』, 学事出版, p. 22

【参考文献】

- 愛知県総合教育センター (2007), 「キャリア教育推進に関する調査研究」, 『愛知県総合教育センター研究紀要 第97集』
- 岩手県 (2008), 「第2部岩手の暮らし」, 『いわて統計白書』
- 梶渕行 (2004), 「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究」, 『研究集録 第23集』, 神奈川県立総合教育センター
- 厚生労働省 (2007), 「高等学校新規学校卒業者の就職離職状況調査結果」, 『労働経済白書』
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2002), 『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書』
- 文部科学省 (2004), 『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』
- 前川岳詩 (2006), 「将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究」, 『岩手県総合教育センター研究紀要』, 岩手県総合教育センター
- 渡辺美枝子 (2007), 「いま, 求められるキャリア教育とは」, 『教育研究岩手』, 岩手県立総合教育センター

高等学校における系統的なキャリア教育を 実践するための指導プランの作成に関する研究

—総合的な学習の時間と特別活動を中心として—

《補助資料目次》

- ＜資料1＞ 職業観・勤労観を育むプログラムの枠組み(例) —高等学校のみ抜粋—
- ＜資料2＞ 岩手県立盛岡商業高等学校キャリア教育全体計画
- ＜資料3＞ 活動内容をキャリア教育のねらいに沿って五段階に整理した作成例
- ＜資料4＞ 指導展開例とワークシート
- ＜資料5＞ 総合的な学習の時間と特別活動を中心とした系統的な指導プラン

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）－職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から

※高等学校のみ抜粋

1 職業的（進路）発達段階と職業的（進路）発達課題

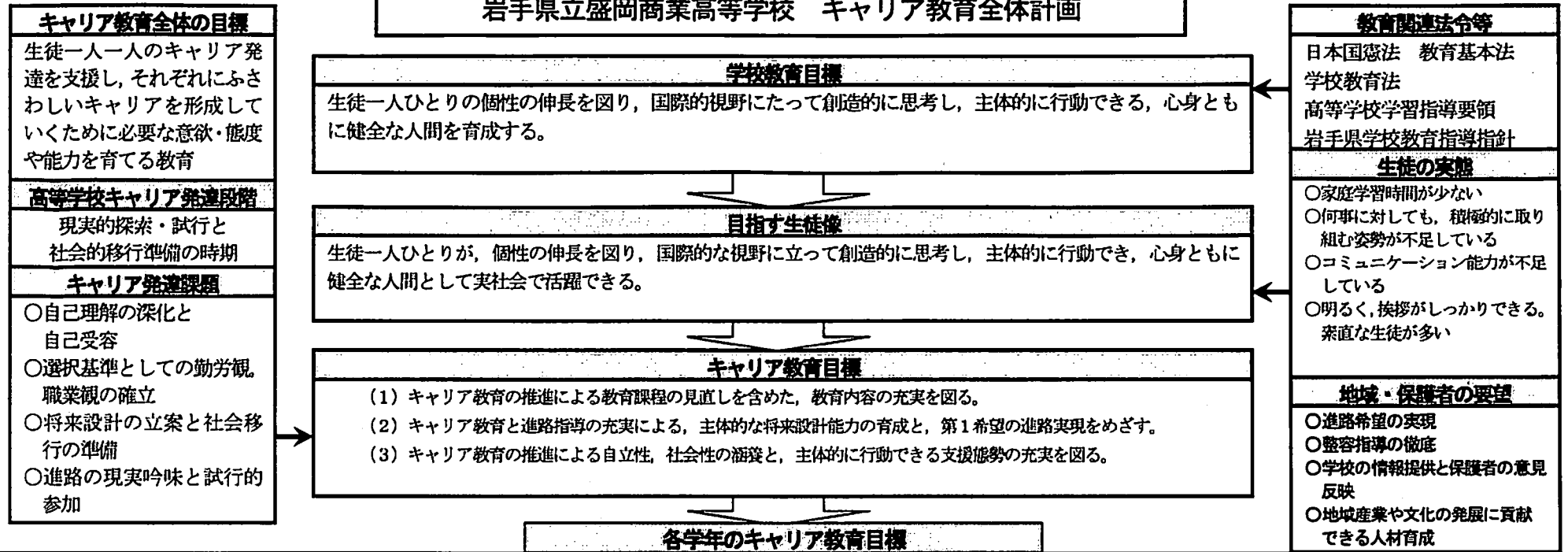
職業的（進路）発達段階	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
職業的（進路）発達課題	○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての職業観・勤労観の確立 ○将来設計の立案と社会移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加

2 職業的（進路）発達段階に関わる諸能力

四つの領域	説明	八つの能力と説明	職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自己理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 ○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 ○互いに支え合い分り合える友人を得る。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 ○異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図る。 ○リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 ○新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ○就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 ○職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 ○調べたことを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことを理解していく能力	○就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 ○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	○学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ○ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	○生きがい・やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 ○職業に対しての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 ○将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともにその過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	○選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 ○多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ○進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 ○選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
		【課題解決能力】 意志決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	○将来設計、進路希望の実現を目指して課題を設定し、その解決に取り組む。 ○自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 ○理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身につける。

出典：キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～（国立教育政策研究所生涯指導研究センター 2002年11月）

岩手県立盛岡商業高等学校 キャリア教育全体計画



	第1学年	第2学年	第3学年
目標	【自己理解を深め、目標を明確にしよう】 ①学校適応と基礎学力の確立 ②他者理解を通じた自己理解による目標設定 ③将来の進路への関心を高め、ライフプランの作成	【将来設計を定め、学力、自己を伸ばそう】 ①幅広い進路、職業、生き方の理解 ②企業調査、職場、学校訪問等による自己の価値観、職業観の検証 ③将来の進路を明確にし、将来設計の吟味	【自己実現に向け、チャレンジしよう】 ①自己の能力、適性等を含め、進路選択の基準となる人生観、勤労観、職業観の確立 ②主体的で適切な進路選択 ③社会的適応力の涵養

教科・領域等におけるキャリア教育の指導内容

各教科	特別活動	総合的な学習の時間	日常生活・その他
①授業で、成就感・達成感・自己有用感を育む。 ②将来の職業生活に必要な権利、義務等の知識、技能の習得。 ③自他の生き方を探求し、社会の変化等を学び、進路選択の力を身に付ける。 ④自己の能力、適性を知り、それを伸長させる自己教育力を育む。	①生徒一人ひとりがクラスでの役割を持ち、責任感と存在感をもてるようにする。 ②コミュニケーションによる人間関係の構築の大切さを学び、社会の一員としての役割を学び、チームの重要性を身に付ける。 ③他者の個性を尊重、理解し、自己理解の認識を深める。	①「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」(学習指導要領より) ②「産業社会」とともにキャリア教育の核として様々な問題解決のために、自ら考え、主体的に行動できる人材を育む。 ③諸能力の全てを網羅する、集大成と位置付ける。	①日常生活で積極的な生徒指導の充実を通して、規範意識やマナーを育む。 ②異年齢集団活動によって、「人とかかわる力」を育成し、協働の心を育む。 ③保護者・地域社会、幼保小中・上級学校と連携を取り、連携ネットワークを構築する。 ④就労体験・奉仕活動等による自己有用感、社会性を育む。

各学年の努力目標

学校教育目標

第一学年のキャリア教育目標

第二学年のキャリア教育目標

第三学年のキャリア教育目標

第一学年のキャリア教育目標		第二学年のキャリア教育目標		第三学年のキャリア教育目標	
第一段階	主な内容	第一段階	主な内容	第一段階	主な内容
自己・他者を理解する	学級づくり 各種委員会決定 各種適性検査 進路希望調査 キャリアアップ講座 宿泊研修 など	自己を再認識する	学級づくり 各種委員会決定 各種適性検査 進路希望調査 キャリアアップ講座 など	自己実現をする	学級づくり 各種委員会決定 各種適性検査 進路希望調査 キャリアアップ講座 など
第二段階	主な内容	第二段階	主な内容	第二段階	主な内容
職業を理解する	職業探索 進路ガイダンス 進路講演会 インターンシップ 事前指導 など	職業を理解する	進路ガイダンス 進路講演会 インターンシップ 事前指導 基礎力診断行事事後指導 社会人講話 など	進路目標の設定	求人票の見方 大学入試センター試験の説明 進路ガイダンス 各種適性検査事後指導 進路講演会 職場・学校見学 など
第三段階	主な内容	第三段階	主な内容	第三段階	主な内容
職業を体験する	職場・学校見学 インターンシップ ふれあい看護体験 販売実習 など	職業・上級学校を体験する	職場・学校見学 インターンシップ ふれあい看護体験 販売実習 など	進路実現への取組	小論文・作文指導 履歴書作成指導 スキルアップ講座 など
第四段階	主な内容	第四段階	主な内容	第四段階	主な内容
将来を設計する	インターンシップ 事後指導 社会人講話 進路希望調査 各種適性検査事後指導 など	将来を再設計する	インターンシップ 事後指導 社会人講話 進路希望調査 各種適性検査事後指導 など	進学・就職受験	進学・就職事前指導 進学・就職事後指導 など
第五段階	主な内容	第五段階	主な内容	第五段階	主な内容
進路目標の仮設定	各種反省(期末・年間) 次年度へ向けての抱負 など	進路を再検討する	求人票の見方 先輩と語る会 次年度へ向けての抱負 など	未来への準備をする	卒業生と語る会 マナーアップ講座 など

「キャリア教育全体計画」において、学校が設定したキャリア教育目標

職業観・勤労観の育成

各学年が設定した努力目標の達成にもつながる

「総合的な学習の時間」や「特別活動」を中心に、「各教科」+「部活動指導」+「日常生活」などでそれぞれの活動内容を意識した取り組みを実施

自分の適性を理解しよう

～基礎力診断テスト 事後指導～

特別活動で実施

必要時間：1時間 活動場所：パソコンの使える教室

諸能力見取りの視点

- 【人間関係形成能力】－自他の理解
- 【将来設計能力】－役割把握・認識
- 【意思決定能力】－課題解決

指導のねらい

- 自己の能力・適性を理解し、受け入れて伸ばさせる
- 様々な情報を収集・探索し、自己の進路の視野を広げさせる
- 今取り組むべき学習や活動を理解させる
- 進路希望の実現を目指して、問題をどのように解決すればいいのかを考えさせる

指導の工夫（留意点）

- 基礎力診断テストの診断結果を客観的に受け止め、これからどのように取り組んでいくかを考えさせる
- 基礎力診断テストの結果を基に、進路の選択を広げていく
- 理想と現実の違いをしっかりと受け入れさせ、その問題をどのように解決すればいいのかを考えさせる
- まとめの段階で、これから自分がどのように目標に向かって取り組んでいくかを投げかけ、意識付けをさせる

	活動内容	指導上の留意点
導入 8分	<p>【役割把握・認識能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動内容の確認 	<p>配布物：基礎力診断テストの結果 ワークシート（自分の適性を理解しよう）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の流れを説明 <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンに電源は入れさせない ・キーボード等の机上整理（作業が入るため） ○本時のねらいを生徒に明確に伝える <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの結果から、自分の学習に何が足りないのか、今後どのような取組をすればいいのか、自分が望んでいる進路にはどのような知識・技術が必要なのかを理解する ○進路選択の参考となるデータであり、この結果で進路が全て決まることではないことを生徒に伝える
展開 37分	<p>【自他の理解能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎力診断テストの結果を、ワークシートに記入しながら振り返る ○パソコンを起動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎力診断テストの結果の見方を解説する <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに沿って、各項目を記入させる ・15分程度を目安 ○インターネットを使い、実施業者のサイトへアクセスし、適性職業・適性学問をチェックさせる <ul style="list-style-type: none"> ・検索キーワードは、「ベネッセ マナビジョン」と入力 ・サイト内のメニューボタン「職業・学問」をクリックさせる ・「適職・適学チェック」のボタンをクリックする ・画面上の《得意分野編》をクリックさせ、質問項目に各々答えさせる <p>★40項目ありますが、3分程度で終わります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい進路の発見や自分の希望する進路と似たような職種があることを理解させる

	<p>○向いている職業・学問を調べる</p> <p>○診断結果をワークシートに記入する</p> <p>○診断結果より、興味・関心のある職種を深く調査する</p> <p>○「社会人講話」の講師職種を調べる</p>	<p>○質問チェックの回答を見て、生徒に向いている職業・学問を調べさせる (就職や進学の希望は一切関係なく実施)</p> <p>○診断結果で出た項目をワークシートに記入させる ・キミのタイプは・・・ → 向いている職業 → 向いている学問の順</p> <p>○診断結果より、生徒が知らない職業や上級学校などを気付かせ、視野を広げさせる ・興味・関心のある学問や職種を2つ選び、深く調べさせる</p> <p>○「社会人講話」のワークシートを振り返り、講師の職業を検索させる ・どのような仕事内容か、技術・知識が必要なのかを調べさせる</p>
ま と め 5 分	<p>【課題解決能力の育成】</p> <p>○本時のまとめ</p>	<p>○ワークシートを用い、これから取り組むべき内容や行動、新しく気付いたことなどをまとめさせる ・ワークシートの回収</p> <p>○進路にかかわる相談は担当組織やガイダンス等も有効に活用できることも伝える</p>

実践活動後の評価

- 自己の能力・適性を理解し、受け入れさせることができたか
- 自己の進路の視野を広げさせることができたか
- 今取り組むべき学習や活動を理解させることができたか
- 進路希望の実現を目指してその解決に取り組む方法を見付けさせることができたか

ワークシートの活用方法例

- 新たに気付いた職種を基に、インターンシップや企業見学などの職種決めで活用する
 - 定期考査や他の診断テストなどを行う際、振り返りながら勤労観・職業観を育成する
 - 「なるにはチャート」を基に、個々の進路の道筋を明確にさせる
- など、個々に対応できるようにしておくことが望ましい。

ワークシートの記入例 と 見取りの視点

記入例

見取りの視点

【今回の成績】より

科目名	理由は?
成績のよかった教科は何でしたか?	【人間関係形成能力】－自他の理解 自己の能力・適性を理解し、受け入れさせること
成績の悪かった教科は何でしたか?	
自分の予想と違っていた教科は何でしたか?	
次回の基礎力診断テストへ向けて、得点アップのアドバイスを整理しよう	
国語	【意思決定能力】－課題解決 今取り組むべき学習や活動を理解させることが
数学	
英語	

客観的に振り返りをさせ、次への意欲につなげるようにさせる

返却した解説に記載されているが、要約して記入させる

自分の向いている職業や学問を整理してみよう

【操作の流れ】

- インターネットを起動 → 検索キーワード「ベネッセ マナビジョン」 → 「Benesse マナビジョン」をクリック → ベネッセのマナビジョンページへたどり着く
- メニューボタンの「職業・学問」をクリック → 「診断・適性チェック」のボタンをクリック → 画面上の《得意分野》をクリックし、質問項目40項目すべてをチェックしていく

ベネッセのサイトまでの接続の流れ時間が余ったら、職業や学校などを調べさせてもよい。
全員一緒に同じ作業をさせる

診断されたキミのタイプは? :

向いている職業と診断されたのは何でしたか?	向いている学問と診断されたのは?

職業によっては、進学も必要になってくる。どのような学部があるのか、そこで何を学ぶのかを理解させる

生徒が知らなかった職業などがあることに気付かせる。
また、希望している進路が、不可能になっても近い（似たような）仕事もあることを理解させる

【人間関係形成能力】－自他の理解
自己の能力・適性を理解し、受け入れさせること

「向いている職業」と診断された中で気になる職業を2つ記入し、調査をしよう

職業名	()
仕事の内容	
ふさわしい人	
就職状況	
こうすれば	
【なるには】	

【将来設計能力】－役割把握・認識
自己の進路の視野を広げさせることができたか

【意思決定能力】－課題解決
進路希望の実現を目指してその解決に取り組む方法

「なるにはチャート」から、自分が望んでいる進路は、どのような方法で達成できるのか、どのような仕事内容なのかを理解させながら、記入させる

自分の適性を理解しよう

～基礎力診断テスト 事後指導～

年 組 番 氏名

実施日： 月 日 ()

提出締切日： 月 日 () まで

この時間で育成したいキャリアの能力

【人間関係形成能力】－自他の理解

【将来設計能力】－役割把握・認識

【意思決定能力】－課題解決

基礎力診断テストの結果を基に、進路希望を整理してみよう

【今回の成績】より

	教科名	理由は？
成績のよかった教科は何でしたか？		
成績の悪かった教科は何でしたか？		
自分の予想と違っていた教科は何でしたか？		
次回の基礎力診断テストへ向けて、得点アップのアドバイスを整理しよう		
国語		
数学		
英語		

自分の向いている職業や学問を整理してみよう

【操作の流れ】

- インターネットを起動 → 検索キーワード「ベネッセ マナビジョン」 → 「Benesse マナビジョン」をクリック → ベネッセのマナビジョンページへたどり着く
- メニューボタンの「職業・学問」をクリック → 「適職・適学チェック」のボタンをクリック →



診断されたキミのタイプは？：

向いている職業と診断されたのは何でしたか？	向いている学問と診断されたのは何でしたか？

- 現在考えている進路希望と向いている職業で一致しているものがありましたか？ YES / NO
- 知らない職業がありましたか？ YES / NO
- 進路を決めるに際し、不安なこと・聞きたいことがありますか？ YES / NO

「向いている職業」と診断された中で気になる職業を2つ記入し、調査を下さい

職業名	()	
仕事の内容		
ふさわしい人		
就職状況		
こうすればなれる・資格		
【なるにはチャート】		
高卒卒業 ()	職業名 ()	

職業名	()	
仕事の内容		
ふさわしい人		
就職状況		
こうすればなれる・資格		
【なるにはチャート】		
高卒卒業 ()	職業名 ()	

社会人講話

総合的な学習の時間 や 特別活動で指導
使用時間：1時間 使用教室：普通教室

この時間で育成したいキャリアの能力

- 【人間関係形成能力】－自他の理解
- 【情報活用能力】－情報収集・探索
- 【将来設計能力】－役割把握・認識
- 【意思決定能力】－選択

指導のねらい

- 他者の仕事に対する価値観を聞き、受け入れさせる
- 必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考えさせる
- 生活・仕事上の多様な役割や意義を理解する
- 選択基準となる自分なりの職業観・勤労観を持つ

指導の工夫（留意点）

- 1 他者の価値観を受け入れる
様々な視点で社会を見てきた講師の価値観や勤労観・職業観を聞くことにより、勤労・職業に対する理解を深めさせる。
- 2 自分の将来と関連付けさせる
心では「なんとなく」将来のイメージを持っているが、講師の話から、自分の将来のあるべき姿をイメージさせる。
- 3 次のステップへとつなげる
次時では、これを基に後期の目標設定やこれから自分がどのように生活を送るかを指導する時間を設定する。
あわせて、本時に使用したワークシートを活用し、これからの生活の仕方を考えさせる。

	活動内容	指導上の留意点
導入 5分	○本時の活動内容の確認 ○講師紹介	配布物：ワークシート（社会人講話） ※1講師につき、1枚 ○本時の流れの説明 ・1クラス2名の講師を2時間行う ・講話終了後、ワークシートにまとめ、回収することを指示 ○本時のねらいを生徒に明確に伝える ・それぞれ違う分野での職業人で、いろんな価値観があるので、これからの進路選択のヒントとなる話を聞くことができる ・各分野の第一線で活躍されてる方々のお話を聞き、社会では、どのような人材が必要なのか、高校生活は、何に努力し、どのような準備をしておくべきなのかをしっかりとメモをとりながら聞き、理解する ○事前に職種、会社名、氏名を確認しておく ・講師名の職種と氏名を板書する
展開 37分	○1講師あたり20分程度の講話を目安（20分×2講師）	○聞く側の基本的なマナーを大切にさせる ・携帯電話の電源OFF ・私語、居眠りはさせない ○質疑応答の時間を用意する

		<p>【日常生活】あいさつや敬語などの大切さを気付かせ、行動に表せるよう指導を行う</p> <p>【各教科】普通の授業がいかに大切かを気付かせ、取り組ませる姿勢を作る指導を行う</p> <p>【LHR】の「基礎力診断テストの振り返り」で、客観的な診断結果を基に、新しい職業観に気付かせることで、進路の視野を広げさせることを指導</p> <p>【総合的な学習の時間】の「キャリア体験プログラム」</p> <p><工業技術基礎を学習する生徒へ></p> <p>この講話を基に、ものづくり分野の学習をとおして、勤労観・職業観を広げる学習を行うことにつなげる</p> <p><企業調査を行う生徒へ></p> <p>この講話を基に、興味・関心を持った市内の企業を調査・研究し、勤労観・職業観を学ぶことにつなげる</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○全体的な質疑応答</p> <p>○「気付いたこと」 「自分で行動に移してみたいこと」 「確認項目」を記入</p>	<p>○1時間の講話が終わった段階で、全体的な質疑応答があるか確認</p> <p>○簡条書きでもよい</p> <p>○ワークシートの回収</p> <p>・記入が間に合わない場合には課題とし、翌明けSHR時に回収することを指示</p> <p>【日常生活】【各教科】【総合的な学習の時間】の活動をとおして、今日学んだことが、自分の進路目標達成のために次回の活動に繋がることを意識させる</p>

実践活動後の評価

- 他者の仕事に対する価値観を聞き、受け入れさせることができたか
- 必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える参考にさせられたか
- 生活・仕事上の多様な役割や意義を理解させられたか
- 選択基準となる自分なりの勤労観・職業観をもたせることができたか

ワークシートの活用方法例

- 企業調査・研究を行う際の職種決める資料として活用する
 - 基礎力診断テストの事後指導を行う際の職業調査の資料として活用する
 - 別な社会人講話を行う事前指導として、本ワークシートを振り返らせる
 - 進路希望調査や職業調べの際、講師の方々の職業も調査を行わせ、職業観を広げさせる
- など、様々な場面で、この時間行った内容を振り返り、意識付けをさせることができる。

ワークシートの記入例と見取りの視点

記入例

見取りの視点

【氏名】 氏
 【職種もしくは会社名】
 (記入例：製造業、通信業、建築業 もしくは、株式会社〇〇)
 【講師内容をメモ】

講師紹介をしている間に記入させる



【人間関係形成能力】－自他の理解
 他者の仕事に対する価値観を聞き受け入れることができたか

箇条書きでもよい
 講師が板書をしないことを前提に、メモ書き程度でもいいので、記入させるよう導入段階で指示



この講話で気付いた・知ったこと
 (箇条書きでもよい)

【情報活用能力】－情報収集・探索
 必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える参考にさせられたか

自分で行動に移してみたいこと
 (箇条書きでもよい)

【将来設計能力】－役割把握・認識
 生活や仕事上の役割・意義を理解させられたか

講話で聞いたことから、自分が実際できそうな行動(遅刻をしない、あいさつをしっかりとやる、など)を記入させる。

次時ではこの部分を使って、後期の目標設定をする参考資料となる。
 箇条書きでもよい。

- 1 講師の方の職業に従事してみたいと思いますか? YES
- 2 1でYESの場合、なぜだと思いますか? (具体的に記述すること)

【意思決定能力】－選択
 選択基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持たせる意欲に繋がったか

(具体的に記述すること)

講話で聞いたことから、整理をして記入させる。

次時ではこの部分を使って、後期の目標設定をする参考資料となる。
 箇条書きでもよい。

講師の話聞き、自分がその職業に向いているかどうかを自分なりに判断させる。その理由を記入することにより、勤労観・職業観の気づきが生まれてくる。

この部分を使って、「企業調査・研究」の業種選択をする際の振り返りデータとする。

社会人講話

年 組 番 氏名
実施日： 月 日 ()
提出締切日： 月 日 () まで

諸能力見取りの視点

- 【人間関係形成能力】 - 自他の理解
- 【情報活用能力】 - 情報収集・探索
- 【将来設計能力】 - 役割把握・認識
- 【意思決定能力】 - 選択

【講師名： 氏】

【業種もしくは会社名： 株式会社〇〇】
(記入例：製造業、通信業、建築業 もしくは、株式会社〇〇)



【講話内容をメモ】



この講話で気付いた・知ったこと
(箇条書きでもよい)

自分で行動に移してみたいこと
(箇条書きでもよい)

- 1 講師の方の職業に従事してみたいと思いますか? YES / NO
- 2 1でYESの場合、なぜだと思えますか? (具体的に記述すること)

自分ができること

総合的な学習の時間 や 特別活動で指導
使用時間：1時間 使用教室：普通教室

この時間で育成したいキャリアの能力

【将来設計能力】－役割把握・認識

【意思決定能力】－課題解決

指導のねらい

- 学校や社会において、自分が果たすべき役割を自覚させる
- 生きがい・やりがいを見つけ出し、自己を生かせる進路実現を現実的に考える
- 自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を考えさせる

指導の工夫（留意点）

- 単なる「何になりたいか」の夢だけではなく、社会人講話の内容を踏まえて、考えていかせる
- 仕事関係・人間関係・趣味等からやりたいことを書き、今何をすればいいのかを考えさせたい
- 社会人講話で行ったワークシートを参考に、「気付いたこと・知ったこと」「行動に移してみたいこと」などを振り返らせ、本時のワークシートを完成させる

	活動内容	指導上の留意点
導入 5分	○本時の活動内容の確認	配布物：ワークシート（自分ができること） ○前時のワークシート（社会人講話）を返却する ・補足説明や追加の配付資料等があったら行う ・ワークシート（自分ができること）を配布する ○本時のねらいを生徒に明確に伝える ・社会人講話から感じたことを自分のこれからの生活にどのように役立てていくのか、また、進路目標達成のために自分がどのようなことに取り組んでいけばよいのかを考える時間とする
展開 35分	○前時の講話から、 「気付いたこと・知ったこと」 「行動に移してみたいこと」 「確認項目」を発表 ○ワークシート前半部分記入（15分程度） （約15分後） ○「社会人講話」のワークシートと本時のワークシートを見比べる	○前時の社会人講話の内容を振り返る ・〇〇氏は高校時代にこういうことをやって欲しい、〇〇氏は仕事をする上で、このような楽しい、大変な場面もある など ○発表した内容は他者の価値観として、受け止めさせる ・2～3名の生徒から ・発表内容は簡単に板書する ○現実的に取り組める内容を考えさせながら、ワークシートに沿って各項目を記入させる ・算用数字の1～3までの項目を記入させる ・15分程度を目安に実施 ・発表はしないので、素直に記入させる （約15分後） ○「社会人講話」で記入した「気付いたこと・知ったこと」 「自分で行動に移してみたいこと」「確認項目」と照らし合わせ、具体的な目標を考えさせる

	<p>○ワークシート後半部分記入 (10分程度)</p>	<p>○記入の具体例を挙げ、後半部分の記入をさせる</p> <table border="1" data-bbox="738 275 1382 629"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="738 275 1382 315">板書例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="738 315 1062 629"> <p>(こんな仕事をしたい) ↓ 看護師になりたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 生物をクラス平均点以上とれるようにしたい</p> </td> <td data-bbox="1062 315 1382 629"> <p>(こんな人と会いたい) ↓ 人の気持ちができる人に会いたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 色々な人と出会って話をしたい</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>・自分がどういう行動等を行えば現実になるのか、上記の例を挙げながら考えさせる</p> <p>○記入の際は、具体的な行動内容を記入させることにより、自分の果たす役割を意識させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目毎に分けず、大枠で記入してもよい ・箇条書きでもよい <p>○机間指導を行い、記入されているか確認を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく記入できない生徒には、過去の体験から考えさせてもよい 	板書例		<p>(こんな仕事をしたい) ↓ 看護師になりたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 生物をクラス平均点以上とれるようにしたい</p>	<p>(こんな人と会いたい) ↓ 人の気持ちができる人に会いたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 色々な人と出会って話をしたい</p>
板書例						
<p>(こんな仕事をしたい) ↓ 看護師になりたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 生物をクラス平均点以上とれるようにしたい</p>	<p>(こんな人と会いたい) ↓ 人の気持ちができる人に会いたい ↓ (そのためにわたしは・・・) ↓ 色々な人と出会って話をしたい</p>					
<p>まとめ 10分</p>	<p>○それぞれの項目が、今後の学校生活を送る上で、どういう意味を持っているのかを理解する</p>	<p>○それぞれの項目の「～できる内容」を読み上げ、自分が果たすべき役割を自覚させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左側＝「自分の努力次第で出来る内容」 ・中央＝「心構え一つで出来る内容」 ・右側＝「常に心の中に目標を持たせる内容」 <div data-bbox="718 1160 1409 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>左側の「自分の努力次第で出来る内容」は、【各教科】【LHR】の「実力診断テスト」において、努力すれば達成できることにつなげる</p> </div> <div data-bbox="718 1310 1409 1534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【LHR】の「基礎力診断テストの振り返り」で、自分の足りないところとその原因を探り、努力をさせることにつなげる 【総合的な学習の時間】の「キャリア体験プログラム」をとおして、将来こんな〇〇をしたい目標に少しでも近づけるような意欲を持たせることにつなげる</p> </div>				

実践活動後の評価

- 学校や社会において、自分が果たすべき役割を自覚させることができたか
- 生きがい・やりがいを見つけ出し、自己を生かせる進路実現を現実的に考えさせることができたか
- 自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を考えさせることができたか

ワークシートの活用方法例

- 年度初めに掲げた個々の目標が見失われる時期でもあるので、再確認をさせる
- 新たに掲げた目標は、この後に控えている学校行事（体育祭や文化祭、定期考査等）を意識した指導を行うと効果があるなど、普段の日常生活を振り返らせ、改めさせるきっかけになるような活用を行うと効果的である。

ワークシートの記入例 と 見取りの視点

記入例

見取りの視点

将来こんな〇〇をしたい!! ※理由も記入してください

<ol style="list-style-type: none"> 1 こんな仕事がしたい 2 こんな資格を取りたい 3 こんな知識を増やしたい 	<ol style="list-style-type: none"> 1 こんな人に会いたい 2 人（家族や友人など）のためにこんなことがしたい 	<ol style="list-style-type: none"> 1 こんなところに行きたい 2 こんな生活をしたい 3 社会のためにこんなことがしたい
--	--	---

1. _____

2. _____

3. _____

【将来設計能力】一役割把握・認識

生きがい・やりがいを見つけ出し、自己を生かせる進路実現を現実的に考えさせることができたか

1. _____

2. _____

3. _____

そのためにわたしはこんな努力を……

1. _____

2. _____

3. _____

【将来設計能力】一役割把握・認識

学校や社会において、自分が果たすべき役割を自覚させることができたか

【意思決定能力】一課題解決

自ら課題を設定し、その解決に取り組む方法を考えさせることができたか

1. _____

2. _____

3. _____

自分の努力次第でできる内容

心構え一つできる内容

常に心の中に目標を持たせる内容

自分の率直な気持ちや、前回のワークシートから感じたことから、どのようなことをしたいのかを具体的に記入させる

「こんな人に会いたい」は、人名ではなく、「こういう努力をしている人」や「こんなことを一生懸命している人」など、具体的な記述が望ましい

例：中村俊輔に会いたい
↓
(なぜ?)
どのような練習をして、上手くなったのかを聞きたい

自分ができる具体的な行動内容を記入させる。
上記では項目毎で分かれているが、ここでは、項目毎に分けず、大枠で記入させる。

全員が記入し終わった段階で話す
自分が果たすべき役割・責任を感じさせる

自分ができること

年 組 番 氏名 _____
 実施日: 月 日 () _____
 提出締切日: 月 日 () _____ まで

諸能力見取りの視点

- 【将来設計能力】 - 役割把握・認識
- 【意思決定能力】 - 課題解決

将来こんな〇〇をしたい!! ※理由も記入してください

- 1 こんな仕事がしたい
- 2 こんな資格を取りたい
- 3 こんな知識を増やしたい

- 1 こんな人に会いたい
- 2 人(家族や友人など)のためにこんなことがしたい

- 1 こんなところに行きたい
- 2 こんな生活をしたい
- 3 社会のためにこんなことがしたい

1 _____

 2 _____

 3 _____

1 _____

 2 _____

1 _____

 2 _____

 3 _____

そのためにわたしはこんな努力を・・・

できる内容

できる内容

内容

第2学年 キャリア教育目標：将来設計を定め、学力と自己の能力を伸ばそう

具体的目標

- ①幅広い進路、職業、生き方の理解
- ②企業調査、職場、学校訪問等による自己の価値観、職業観の検証
- ③将来の進路を明確にし、将来設計の吟味

実施月	主な内容 (具体的内容：必要時間数)	活動の中心となる 時間	この活動でも 育成できる能力	主な指導内容	振り返りの活動	活用する ワークシート名	実践過程での評価 (次回へ活かすことなど)	
7月	基礎力診断テスト (1時間)	総合的な学習の時間	【自己の理解能力】 【情報収集・探求能力】	事前準備：検査用紙・進路指導の担当者との打ち合わせ	/	/	/	
				<ul style="list-style-type: none"> ①期末考査のようなテストではなく、自分を客観的に見てくれる検査であることを指示 ②今後の学校生活を送る上で、自分の適性や能力を正しく判断してくれる検査であることを理解させる 				
9月	基礎力診断テスト (事後指導：1時間)	特別活動	【自己の理解能力】 【役割把握・認識能力】 【課題解決能力】	事前準備：適性検査の結果 (生徒返却用と教師用) ワークシート (自分の適性を理解しよう)	8月に行った「社会人講話」より、講師の職業と講話内容を振り返りながら指導を行う	①自分の適性を理解しよう	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自己の能力・適性を理解し、受け入れさせられたか <input type="checkbox"/> 様々な情報を収集・探求し、進路の視野を広げられたか <input type="checkbox"/> 今取組むべき学習や活動を理解させられたか <input type="checkbox"/> 進路希望の実現を目指して、問題をどのように解決すればいいのか、考えさせられたか 	
8月	社会人講話 (1～2時間)	特別活動	【自己の理解能力】 【情報収集・探求能力】 【役割把握・認識能力】 【選択能力】	事前準備：外部委託の場合は、講話の題名、氏名を押さえておく 講話を行う会場の設定・準備 (マイクの有無・会場レイアウト) ワークシート (社会人講話) 原簿約1名につき、1枚	日常生活でのあいさつや敬語の大切さを気付かせる	①社会人講話	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 他者の仕事に対する価値観を聞き、受け入れさせることができたか <input type="checkbox"/> 必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える参考にさせられたか <input type="checkbox"/> 生活・仕事上の多様な役割や意義を理解させられたか <input type="checkbox"/> 選択基準となる自分なりの役割観・職業観をもたせることができたか 	
				事前準備：前時に使用したワークシート (社会人講話) ワークシート (自分ができること)	事前に行っていた「キャリアガイダンス」や「進路講演会」の内容を振り返りながら指導を行う	①社会人講話 (前時に配布済み) ②自分ができること	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分が果たすべき役割を自覚させることができたか <input type="checkbox"/> 自己を生かせる進路実現を現実的に考えさせられたか <input type="checkbox"/> それぞれが設定した課題と解決するための方法を考えさせられたか 	
				事前準備：生徒名簿 ワークシート (キャリア体験プログラムの全体の流れ) (キャリア体験プログラム①)	企業を選択をする際、以前に行った「社会人講話」や「進路講演会」などのワークシートを振り返り、研究したい企業を吟味させる	①キャリア体験プログラムの全体の流れ ②キャリア体験プログラム①	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「職業」と「職種」の違いを理解させることができたか <input type="checkbox"/> 勤務についての意義を理解させることができたか 	
9月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) に向けた事前調査 (進路希望調査：1時間)		【役割把握・認識能力】 【課題解決能力】	<ul style="list-style-type: none"> ①各職種毎で、キャリア体験プログラムの全体の流れを説明する ②次回に予定しているキャリア体験プログラム (企業調査・研究) を行うための希望調査であることを伝える ③職種の情報は、学校や地域の実態にあわせて設定する (過去の採用された職種やインターンシップ等の内容による) (平均5～8職種程度：(例)製造業・サービス業・公務員など) ④友人同士で固まるのではなく、自分が得意なものをしたいのかや以前に行った「社会人講話」や「進路講演会」などを振り返り、調べてみたい職種を考えさせる ⑤各クラスがまとまった段階で、人数確認と集合設定、その職種を指導する担当者を決定する ⑥職種毎の出発簿を作成する 				

(一) 職業を理解する 第二段階	9月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (グループ分け・希望調査・役割分担: 1時間)	総合的な学習の時間	【自他の理解能力】 【コミュニケーション能力】 【情報収集・探索能力】 【役割把握・認識能力】 【選択能力】 【職業理解能力】	事前準備: 過去の求人票ワークシート (キャリア体験プログラム②・③) ①クラスの枠を外して、活動を行う ②事前にに行った職種で教室を割り当て、生徒に伝えておく ③グループ編成 (1グループ3~4名程度) を行う ④調査対象企業を選定 (管内で選定する) する 例1: インターネットによる検索 例2: 求人票による検索 ※取材不可能な企業や他グループと重なることを想定し、第3希望まで選定する	企業選択をする際、以前に行った「社会人講座」や「進路講演会」などのワークシートを振り返り、研究したい企業を吟味させる	①キャリア体験プログラム②~③	<input type="checkbox"/> 企業の基本的な活動や組織について、理解を深めさせることができたか <input type="checkbox"/> 職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集める手だてを理解させることができたか <input type="checkbox"/> 1つの目的に向かって、コミュニケーション能力を育成させるきっかけにさせることができたか
	9月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (企業調査: 2時間)		【コミュニケーション能力】 【役割把握・認識能力】 【情報収集・探索能力】 【職業理解能力】 【課題解決能力】 【計画実行能力】	事前準備: 前時に使用したワークシート (キャリア体験プログラム①~③) ①業種毎で集合させる ②調査対象企業が決定したグループより、企業調査を行う 例1: インターネットによる調査 例2: 求人票による調査 例3: 会社案内パンフレットによる調査 ③調査内容を踏まえ、各グループでオリジナルの調査項目や質問項目を考えさせる	1年次の「販売実習」やこれまでの「キャリアガイダンス」や「進路講演会」の内容や各教科 (現代社会やビジネス基礎、簿記等) で学んだ内容を振り返りながら、企業経営に関わる基礎的な知識を洗い出させる	①キャリア体験プログラム④ (前時に配布済み) ②キャリア体験プログラム④	<input type="checkbox"/> 企業の基本的な活動や組織について、理解を深めさせることができたか <input type="checkbox"/> 職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集める手だてを理解させることができたか <input type="checkbox"/> 自分が果たすべき役割を自覚させることができたか
	10月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (接客・マナー等: 1時間)		【コミュニケーション能力】 【職業理解能力】 【課題解決能力】	事前準備: ワークシート (キャリア体験プログラム⑤) ①業種毎で集合させる ②企業訪問をとおして、学習する内容を指導する		①キャリア体験プログラム⑤	
	10月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (企業訪問のロール・プレイ: 1時間)		【コミュニケーション能力】 【職業理解能力】 【課題解決能力】	事前準備: 前時に使用したワークシート (キャリア体験プログラム⑤) ワークシート (キャリア体験プログラム⑤) ①グループ単位での活動 ②前時の指導を受けて、その中の「アポイントメントの取り方」「名刺の受け渡し方」「質疑の経緯」を中心に行う ③複数の指導担当者が居る場合は、事前に模擬演技を行ってみせると効果的である ④単独の指導担当者の場合は、生徒を使って、模擬演技を行う ⑤グループ全員が役割にあたっているため、全員がロールプレイを行うように指導する	普段学校で指導されていることや「マナーアップ教室」「キャリアガイダンス」などで学んだことを振り返らせる	①キャリア体験プログラム⑤ (前時に配布済み) ②キャリア体験プログラム⑤	<input type="checkbox"/> 社会人としての基本的なマナーを身に付けさせられたか <input type="checkbox"/> 学校生活での礼法指導が、将来に結びついていることを感じさせることができたか <input type="checkbox"/> ロールプレイングをとおして、マナーの大切さを感じさせることができたか

(二) 職業・上級学校を体験する 第三段階	実施月	主な内容 (具体的内容・必要時間数)	この活動でも育成できる目標能力	主な指導内容	振り返りの活動	活用するワークシート名	実践過程での評価 (次回へ活かすことなど)
	10月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (体験活動: 2時間)	【コミュニケーション能力】 【情報収集・探索能力】 【職業理解能力】 【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】 【課題解決能力】	事前準備: 前時に使用したワークシート (キャリア体験プログラム④~⑥) ①アポイントメントの時間を確認させる ②マナー指導で学んだ内容を実践させる ③各々が調査した内容や質問事項を直接聞いてくる	キャリア体験プログラムの事前指導で学んだ内容を振り返らせ、実践する	①キャリア体験プログラム④~⑥ (前時に配布済み)	<input type="checkbox"/> 色々と場に応じたコミュニケーションを促させる活動となったか <input type="checkbox"/> 職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集めることができたか <input type="checkbox"/> 選択基準となる自分なりの価値観、勤務先・職業観をもたせることができたか
10月	キャリア体験プログラム (企業調査・研究) (事後指導 礼状作成: 1時間)	【コミュニケーション能力】 【情報収集・探索能力】 【職業理解能力】	事前準備: 前時に使用したワークシート (キャリア体験プログラム④) ワークシート (キャリア体験プログラム⑦) 消書き便せん (コピー用紙に原紙を引いたものでも良い) 発信用封筒 (1グループ=1枚、学校名が入ったもの) ①ワークシート (キャリア体験プログラム⑦) を使い、お礼状の作成の基本を指導する ②前時に使用したワークシート (キャリア体験プログラム④) を使い、見学した内容を振り返らせ、感じたことを思い出させる ③グループリーダーに、封筒の宛名書きをさせる ④お礼状の下書きができたところで、指導担当者からチェックを受けさせる ⑤チェックが済んだ段階で、消書きを行わせる ⑥完成したお礼状は指導担当者が保管をし、グループ全員が揃った段階で発送する ★今後の参考にするために、コピーを取っておくのが望ましい	導入時に、マナー指導や国語・作文指導で学んだ内容を振り返る	①キャリア体験プログラム④ (前時に配布済み) ②キャリア体験プログラム⑦	<input type="checkbox"/> 調べたことを自分の思いや感じたことを伝え、記述させることができたか <input type="checkbox"/> 社会規範やマナー等の必要性や意義を理解し、習得させられたか	

